

編集方針

京王グループは、昨年初めて「社会環境報告書」を発行しました。2回目の発行となる今回は、事業を取り巻く社会環境の変化などを受け、「安全」こそが、当社の最大の使命であるという基本に立ち返り、安全性に関する記載を充実させ、タイトルも「安全・社会・環境報告書2006～CSRレポート～」と変更しました。

京王グループは、今後も、お客様に安全で快適なサービスを提供することに努めていきます。さらに、地域社会・行政・株主・社員といったステークホルダーと誠実な関係をつくり、地球環境保全に積極的に取り組むことで、「信頼のトップブランド」になることを目指します。

報告書の発行を通じて、さまざまな情報を開示し、皆様とのコミュニケーションを図ることで、企業活動および報告書の継続的改善に役立てていきます。巻末にアンケートを挟み込みましたので、ご意見、ご感想などをいただければ幸いです。

【報告範囲・報告時期】

- ◎本報告書は、京王電鉄単体（鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門）の2005年度（2005年4月1日～2006年3月31日）の報告書です。
- ◎環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2005年度のデータです。
- ◎活動事例は、一部2005年度以前・以後の事例、および京王グループの事例を含みます。
- ◎なお、京王電鉄では2006年6月に組織改正を行いました。本報告書では、改正後の部署名で表記しています。

目次

■ トップメッセージ	3
■ 特集1 鉄道事業におけるさらなる安全性向上の取り組み	5
■ 特集2 駅・商業施設における快適性向上の取り組み	7
■ 京王グループのCSR	9
■ 安全性報告	
鉄道の安全対策	13
グループ会社の安全対策	15
■ 社会性報告	
お客様とつながりあう	17
株主とつながりあう	20
社員とつながりあう	21
地域社会とつながりあう	23
協力会社・行政とつながりあう	25
■ 環境報告	
地球とつながりあう—京王電鉄の取り組み—	26
—グループ各社の取り組み—	29
京王リサイクルパッケージシステム	31
環境負荷データ／環境会計	32
2006年度環境目標	33
■ 報告書に関する専門家の意見	34

会社概要

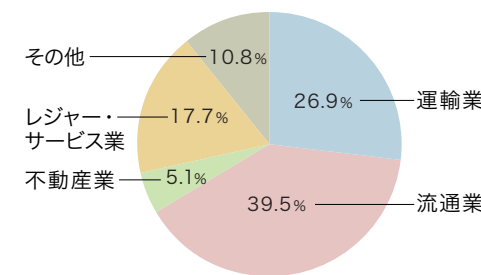
社名	京王電鉄株式会社	● 駅数	69 駅
会社設立	1948年6月1日	● 営業キロ	84.7km
本社所在地	〒206-8502 東京都多摩市関戸1丁目9番地1 (登記上の本店所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿3丁目1番24号)	● 輸送人員	年間6億642万人 (2005年度実績)
資本金	590億23百万円	● 車両数	868両 (貨車5両含む)
従業員数	2,142名 (2006年3月31日現在)	開発事業	● 新規賃貸資産の開発 ● 賃貸資産の管理・営業 ● ショッピングセンターの管理・運営 ● 住宅地等の販売
営業内容	● 鉄道事業 ● 開発事業 (土地、建物の賃貸業・販売業など)	グループ会社数	● 全42社
鉄道事業	● 路線		
	京王線、高尾線、相模原線、競馬場線、動物園線、井の頭線		

京王グループ 会社一覧

運輸業	流通業	不動産業	レジャー・サービス業	その他
京王電鉄(鉄道) 京王電鉄バスグループ 京王電鉄バス 京王バス東 京王バス中央 京王バス南 京王バス小金井 西東京バス 多摩バス 京王自動車 京王運輸 御岳登山鉄道*	京王百貨店 京王ストア 京王リテールサービス 京王書籍販売 京王電鉄(ショッピングセンター) 京王バスポートクラブ 京王アートマン 京王食品 京王グリーンサービス 京王商事* エリート* 京王友の会*	京王電鉄(開発) 京王不動産 京王地下駐車場	京王観光 京王プラザホテル 京王プラザホテル札幌 京王プレッソイン 京王エージェンシー 京王レクリエーション レストラン京王 京王コスチューム*	京王設備サービス 京王重機整備 東京特殊車体 京王建設 京王電鉄(情報通信) 京王ネットワークコミュニケーションズ 京王アカウンティング 京王ビジネスサポート 京王情報システム 京王ユース・プラザ 京王シニアスタッフ 新東京エリート*

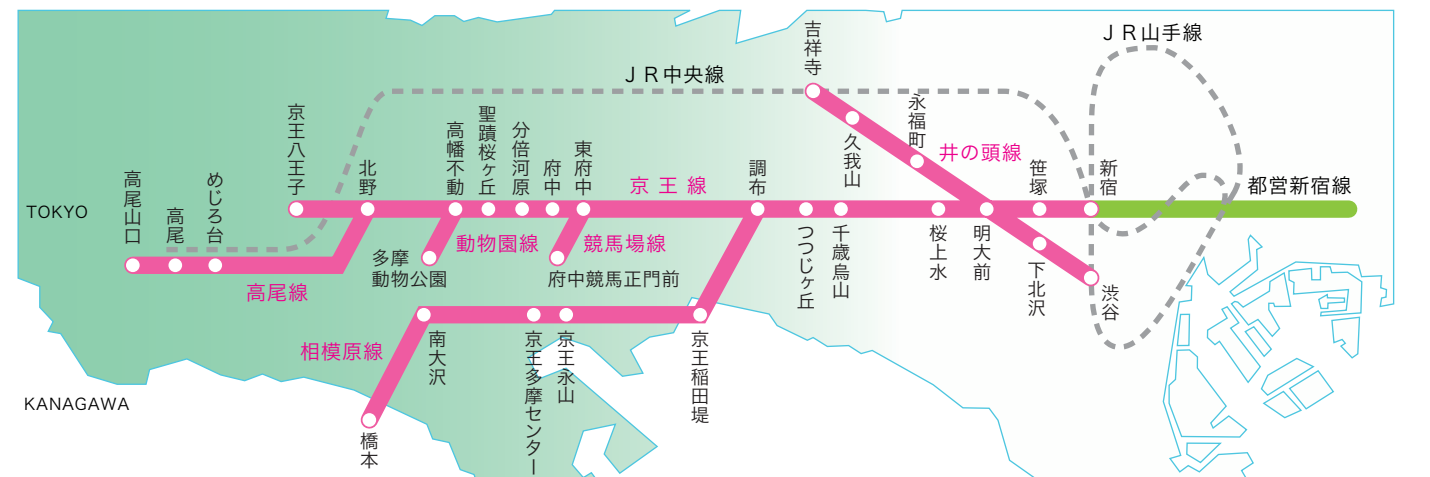
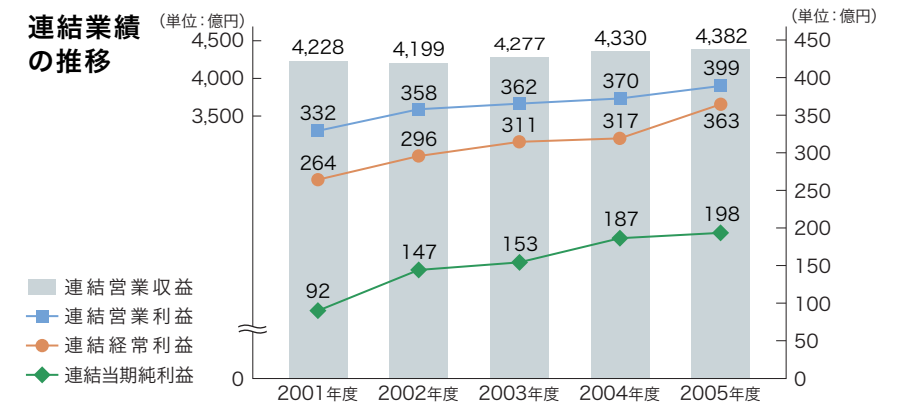
*印は持分法適用会社です。なお、事業セグメント分類上、京王電鉄が重複して含まれております。
(注) 京王観光は2005年4月1日付で駅売店業を分割し、同事業について新会社「京王リテールサービス」に承継させております。

連結営業収益の構成比率



連結営業収益 **4,382** 億円

連結業績の推移



安全を最大の使命ととらえ、 「信頼のトップブランド」を目指します。

私たち京王グループの最大の社会的責任、それは、安全という基礎に立って、各種サービスをご提供することです。

企業の不祥事が後を絶ちません。中には製品そのものの欠陥など利用者の安全をおびやかす事件・事故も発生しています。それらは、人命にかかわることもあり、その後の対応によっては、これまで築き上げた信頼を一気に失墜してしまう可能性があります。

また昨年は、各地で重大な鉄道事故が数多く発生し、鉄道業界に大きな衝撃をもたらした年でありました。

京王グループの基幹事業である鉄道事業にとって「安全」は最大の使命、最高のサービスであり、すべてにおいて優先されなければならないとの決意を改めて強くしました。しかもその追求に終わりはありません。当社は、鉄道のさらなる安全性向上のために、国土交通省の技術基準改定に基づく信号システムの抜本的な改良に着手するとともに、連続立体交差事業の推進、高架橋の耐震補強など、2006年度は前年に比べて42%増の165億円の安全に係わる投資をするほか、鉄道全体でも約40%増の268億円の投資を予定しております。さらに社員教育・訓練を充実させるとともに、安全に関する施策を専任で推進する部署を設置するなど安全管理体制をさらに強化してまいります。「安全」は、お客様からの信頼の根幹を成すものであり、これらの施策が10年、20年先を見据えた企業価値の向上に資するものであると確信しています。

リスクマネジメント体制と京王プレッソイン構造計算書偽装問題について、ご報告します。

お客様の安全確保は鉄道事業に限らず、他の事業においても最大の使命であることは論を待ちません。当社は、京王グループ理念である「信頼のトップブランド」にふさわしい適切なリスクマネジメントを行うべく、2005年8月にリスクマネジメント体制を構築し、2006年8月にはグループ全体に拡大しました。今後も「お客様の安全」をリスク対策における最重要課題と位置づけ、体制・対応策の整備を進めてまいります。

昨年11月17日、京王プレッソイン茅場町の構造計算書偽装問題が明らかになった際は、同日、社長である私を本部長とする危機管理本部を設置し、対応にあたりました。その結果、茅場町、五反田、池袋の3店舗につきましては、第三者による構造計算書の偽装により、建物の耐震性能値が建築基準法で定められた値を下回ることが判明しました。そのため、速やかに当該3店舗の営業を休止するとともに、各方面への情報開示に努めました。ご心配をおかけしましたが、リスクマネジメント体制が構築できていたために、比較的早い段階での決断・対応ができたのではないかと思います。

なお、当該3店舗についてはすでに解体に着手しており、建替え工事を行うことを決定しました。また、建物の耐震性能値が建築基準法に適合している東銀座、神田、新宿、大手町の4店舗では、以前と変わらぬご利用をいただいております。プレッソイン事業につきましては、今後も、お客様のニーズに応えるべく一層の拡充に努めてまいります。

鉄道・バスのご利用促進をはじめ、グループ各社がそれぞれの業務の中で環境保全に取り組みます。

京王グループが地球環境保全のために何ができるかを考えますと、まずはエネルギー消費の少ない鉄道・バスをより多くの方々にご利用いただけるよう、安全性・快適性を一層向上させなければなりません。鉄道のエネルギー使用量は自家用車の10分の1で済むといわれています。環境負荷の小さい社会の実現に向けて、鉄道・バスのご利用を促進すべく、安全・安定運行やバリアフリー化に日々努めています。

また、2004年度に事業を開始した、生ゴミをリサイクルし有機肥料を作る「京王リサイクルパッケージシステム」は、当社ショッピングセンターやグループ各社のほか外部企業も加わり、拡がりを見せています。京王ストアや京王プラザホテルではこのシステムで生ごみを肥料などにリサイクルし、これを使って育てた野菜を販売および食材として使用するなど、循環の輪が形成されました。このほか、当社の鉄道事業部門、開発事業部門、本社ビル・一般管理部門では、部門各部の2006年度環境目標を設定し、達成に向けて環境活動に積極的に取り組んでいきます。またグループ各社でも、社員一人ひとりが高い環境意識を持って、事業の成果はもちろん、それと連動して環境の面でも効果をあげることでできる環境経営を実践していきたいと考えています。

当社は、昨年初めて「社会環境報告書」を発行いたしましたが、読者の皆様から、報告書をもっと多くの方に発信すべきといったご意見やグループ会社の安全対策について知りたいなどのご要望を頂戴しました。

「信頼のトップブランド」を目指す当社・当グループにとって、「安全」は経営の根幹であり、つながりあうすべてのステークホルダーの方々から信頼をいただく源でもあります。そこで今回は京王グループの安全に関する記載を増やすことで社会面から独立させ、タイトルを「安全・社会・環境報告書」としました。また協力会社との関係や環境目標なども新たに盛り込んでおります。本報告書を通じて当社の社会的責任を明確にし、その責任を果たすべく、引き続き事業活動の改善に努めてまいります。ご高覧の折にはご感想をお寄せいただければ幸いです。

京王電鉄株式会社 取締役社長

加藤 真



より安全な鉄道を目指して。 京王電鉄の最新の取り組みをご紹介します。

京王電鉄では、安全を最大の使命とし、これまでに様々な安全対策を実施してきました。お客様からの「信頼」の絶対条件となる安全性の向上を図るため、現在取り組んでいる施策についてご紹介します。

※従来からの取り組みについてはp13-14をご覧ください。

鉄道立体化の推進による抜本的な踏切対策

調布駅付近では、連続立体交差事業^{*}を2012年度の完成を目標に東京都・調布市と協力しながら進めています。この事業では、京王線の柴崎駅～西調布駅間の約2.8kmと相模原線の調布駅～京王多摩川駅間の約0.9kmを地下化し、鶴川街道や狛江通りなどの道路と立体交差を図ることで、18箇所の踏切を廃止します。

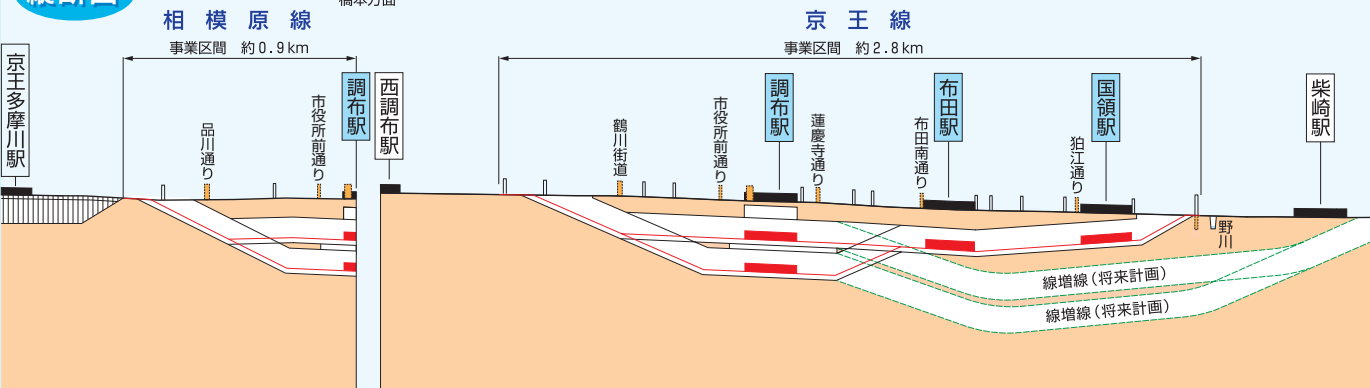
2003年の事業認可後、これまでに用地取得のほか、鉄道施設の仮設工事、土留杭の打設などの工事を実施しました。今年度は引き続き用地取得を行うほか、区間全域にわたって工事を始めるとともに、国領駅や布田駅の地下駅舎は工事に支障するため、仮橋上駅舎の建設を進めていきます。このほか、京王線笹塚駅以西のボトルネック踏切の解消に向け、関係機関と鉄道立体化の協議を積極的に進めていきます。

平面図

調布連続立体交差事業等の概略図



縦断面図



^{*}連続立体交差事業：連続立体交差事業は2箇以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環として都道府県、政令指定都市、県庁所在地都市、人口20万人以上の都市、特別区が実施する都市計画事業として行われ、その財源はガソリン税、自動車重量税などをもとにしています。

自動列車制御装置(ATC)の導入

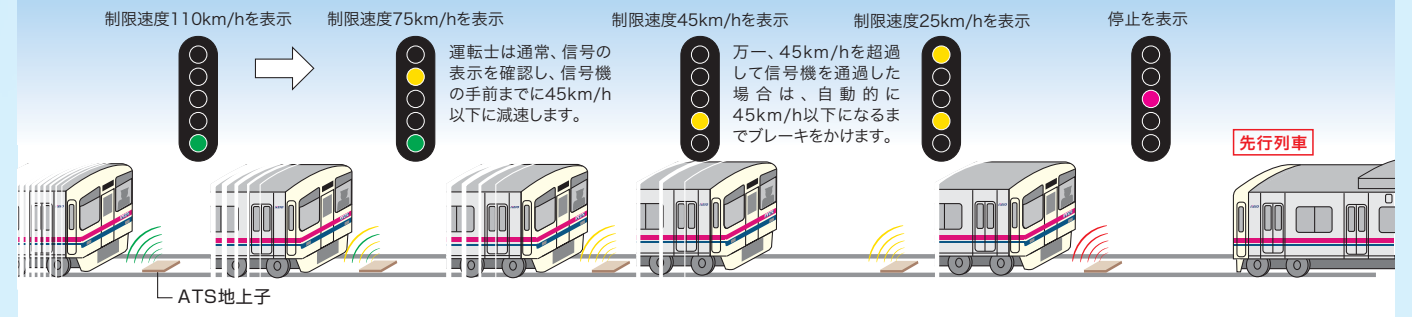
昨今の鉄道重大事故などを受け、「鉄道に関する技術上の基準を定める省令等の一部を改正する省令」が国土交通省から公布されました。省令の改正では、曲線・ポイント(分岐器)・線路終端等へ列車が進入する際に、安全上支障のない速度まで自動的に減速させることなどができる装置の導入を義務付けています。

運転用の信号システムとして現在採用しているATS(自動列

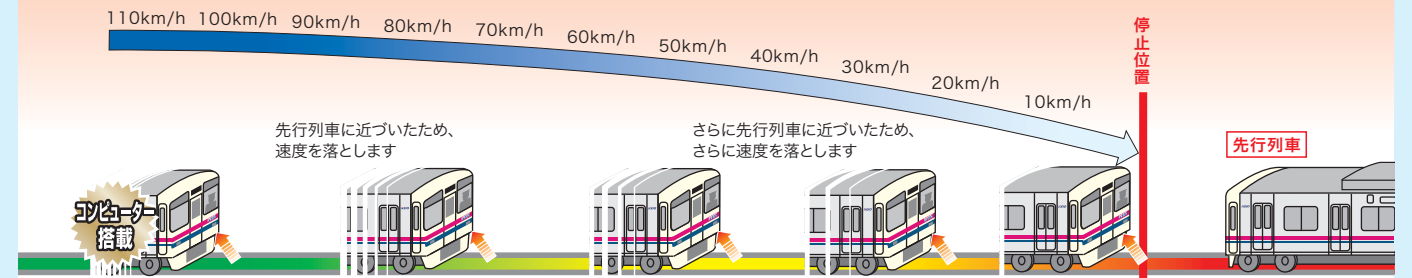
車停止装置)を改良する方式で、このたびの技術基準の改正に対応はできます。しかし、京王では断片的に「点」で速度を管理するATSではなく、連続的かつ自動的に「線」で列車を制御することができ、ATSに比べさらに安全性の高いATC(自動列車制御装置)で技術基準の改正に対応することとし、京王線・井の頭線全線にATCを導入していきます。

なお、技術基準の改正に対応すると速度管理が厳しくなり運行に影響が出ますが、ATCはATSより効率的な運転が可能である装置のため、現行の所要時分や運転本数が維持され、運行サービス水準を確保することができます。

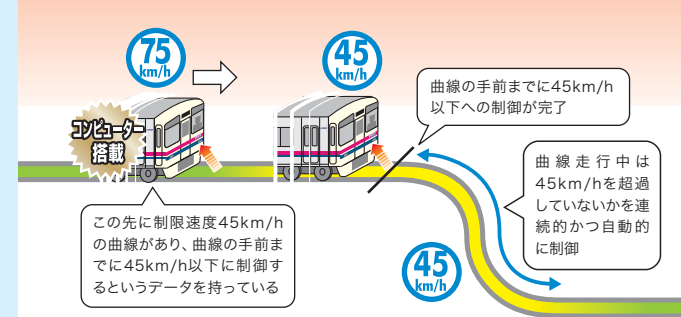
[現在] ATS 先行列車との間隔に応じて、線路上に設置した信号機が5段階の制限速度を表示します。



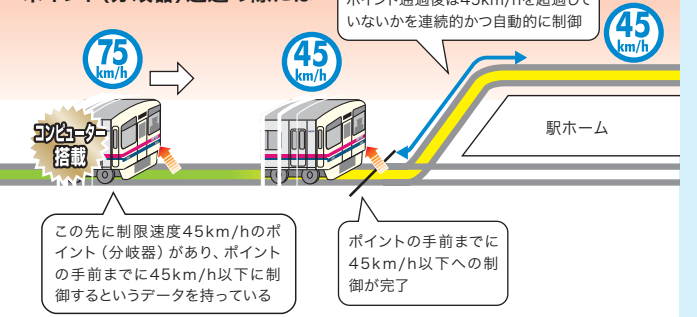
[将来] ATC 車両に搭載しているコンピューターが、レールに流れている信号電流を受け取ることで、先行列車との間隔を連続的に把握し、常に適切な速度で走行できるように、列車を制御します。



曲線通過の際には



ポイント(分岐器)通過の際には



沿線価値の向上と、 商業施設や駅の快適性向上に取り組んでいます。

京王では、商業施設や駅の快適性・利便性を高めるなど地域社会の発展に貢献することで、沿線価値の向上を目指しています。ここでは、2006年7月7日にオープンした「京王リトナード稲城」と改良工事を実施した「稲城駅」の例をご紹介します。

地域社会の発展に貢献することで、沿線価値の向上に努めています。

京王グループでは、地域の方々によるこんでいただける商業施設をつくり、地域社会の活性化を図ることで、沿線価値の向上に努めております。

今回ご紹介する稲城駅周辺には、もともとスーパーマーケットやドラッグストアといった商業施設がなく、また、駅自体が高低差のある土地に建設されていたため、お客様には最大3階分に相当する階段をのぼっていただく必要がありました。

京王リトナード稲城は、稲城駅に直結する地上6階建ての施設で、1・2階に駐車場を設け、3・4階にはスーパーマーケットやドラッグストア、書店などの店舗を駅からの動線にあわせて配置することで、利便性の向上を図りました。お客様には、4階から直接駅に入っていただくことができます。また、5・6階はスポーツクラブとなっています。

7月7日のオープン当日には、予想以上のお客様にご来場いただいたほか、オープニング式典には稲城市長にもご参加いただき、地域社会からの期待が高い施設をつくることができました。

駅や商業施設を快適にご利用いただけるよう、バリアフリー化に積極的に取り組んでいます。

だれでもトイレ

駅のトイレはもちろん、京王リトナード稲城にも「だれでもトイレ」を設け、車いすをご利用のお客様を始めとする方々にもご利用いただいています。



だれでもトイレ



オープニングセレモニー



京王リトナード稲城の外観



駅へ通じる階段



駅反対側の入口

工事中はもちろん、オープン後も、環境保全に取り組んでいます。

工事中のお客様の安全確保・騒音対策

駅の工事は、工事中もお客様の通行路を確保するため、万全の安全対策が求められます。稲城駅の改良工事では、駅工事に関して豊富なノウハウを持つ京王建設が手がけました。また、騒音に関する苦情も少なく工事を完了することができました。

京王リトナード稲城の環境保全活動

京王リトナード稲城は、4階部分の吹き抜けを開放し、外光を取り込むことで照明を削減するなど、建築物総合環境評価を基準にした設計を採用しています。

テナントの京王ストアでは、「京王リサイクルパッケージシステム[※]」を導入し、生ゴミをリサイクルした消臭剤の販売や、生ゴミからつくった肥料を使った野菜を有機野菜として販売しています。レジ袋の使用抑制のため、開店記念にオリジナルのショッピングバッグ「エコバッグ」を2,200名のお客様にプレゼントしました。(エコバッグは販売もしています) この他、お買い物袋をご持参のお客様に「グリーンカード」を発行し、スタンプ20個で100円のお買い物券を差し上げるなど、環境保護に向けた活動を進めています。(京王ストア共通)

※京王リサイクルパッケージシステムについては、p31をご覧ください。



京王ストアオリジナルエコバッグと店内ポスター

社員一人ひとりが、 社会から信頼されるブランドを築いていきます。

京王グループは、グループ理念として「信頼のトップブランド」になることを、社会に対して宣言しています。その実現に向けて、2004年4月、「京王グループ行動規範」を制定しました。この中で、私たちは、事業に関わるすべてのステークホルダーを尊重すること、社会に貢献すること、環境保全に取り組むことなど、企業としての社会的責任を果たしていく意思を表明しています。私たちは、社員一人ひとりが、企業の社会的責任に対する正しい認識を持ち、行動することによって、社会から信頼されるブランドを築いていきます。

京王グループ行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、
私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します

- お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- 常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- 適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って 企業価値の向上に努めます

- 全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- 法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します
- 反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます
- 知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- 社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

社会の一員としての責任を果たします

- すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- 社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- 社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

京王グループ 理念

私たち京王グループは、

つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。

そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

2003年1月1日制定

京王グループ スローガン

あなたと あたらしい あしたへ——京王グループ

京王グループとのつながり



コーポレート・ガバナンスと内部統制

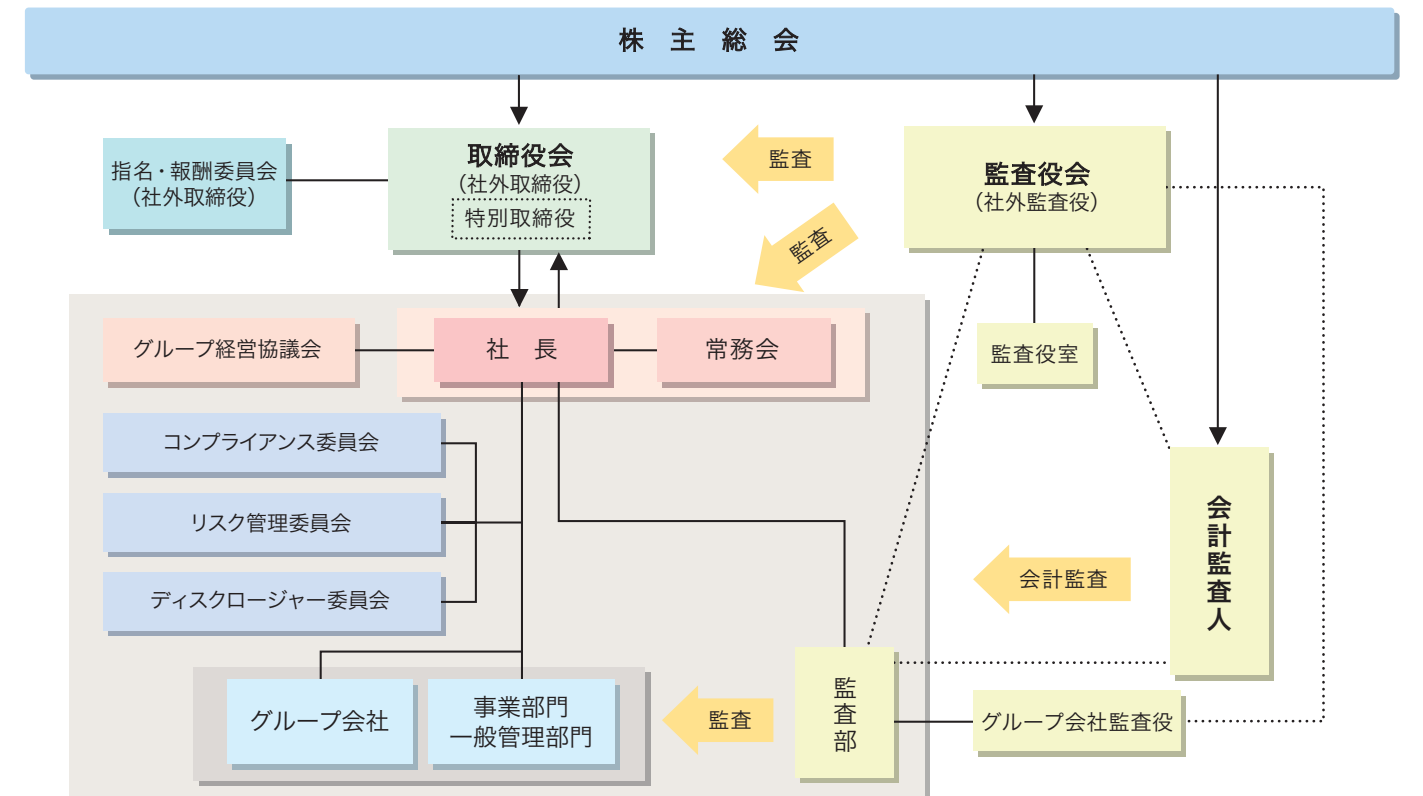
コーポレート・ガバナンスに対する考え方

「京王グループ理念」に基づき、つながりあうすべてのステークホルダーからの信頼を得て、企業価値向上を実現するため、コーポレート・ガバナンスの充実、強化に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制

取締役会は社外取締役2名および主要なグループ会社の社長6名を含む18名で構成し、経営上の重要な事項についての決議や業務執行の監督を行うほか、特別取締役を選定し、迅速な意思決定を行っています。また、任意の諮問機関である指名・報酬委員会において役員の人事・報酬について審議するほか、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、ディスクロージャー委員会を設置するなどガバナンス体制の充実に努めています。さらに、グループ経営協議会、京王グループ社長

コーポレート・ガバナンス体制



会を定期的開催するなど、グループガバナンス強化にも積極的に取り組んでいます。監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成しています。監査役は監査役会で定めた基本方針に基づき取締役の職務執行の監査を実施するほか、重要な会議での意見陳述などを行います。

内部統制システムの充実

京王グループは「信頼のトップブランド」を確立するため、内部統制システムの充実に努めています。2006年5月に施行された会社法を受けて、「コンプライアンスの確保」「財務報告の信頼性の確保」「業務の有効性・効率性の確保」「資産の保全」を目的として、「京王グループ内部統制システムに関する基本方針」をグループ全社の取締役会で決議しました。今後も基本方針に基づき、グループ全体で内部統制システムの確立と整備運用に努めてまいります。

コンプライアンス

コンプライアンスに対する考え方

コンプライアンスは、一般的に「法令遵守」と訳されますが、法令遵守にとどまらず、社会の規範やルールまで含めて遵守することで、社会の期待に応えることが京王グループの取り組むべきコンプライアンスであると考えています。

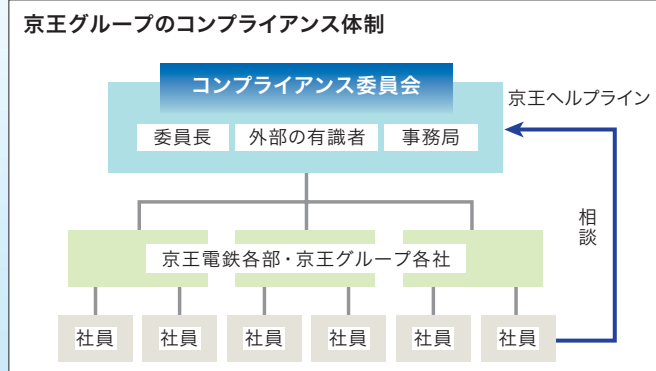
コンプライアンスに取り組むことにより、不祥事の起きにくい風土をつくり、誠実な企業としてお客様や社会から一層の信頼を獲得していきたいと考えています。

京王グループのコンプライアンス体制

「京王グループ行動規範」をグループ全体に浸透させ、継続的に取り組んでいくため「コンプライアンス体制」を構築しています。この体制の特徴として、「シンプルなコンプライアンス委員会」「誰もが相談しやすいヘルプライン」の2つがあげられます。

「コンプライアンス委員会」は、委員長、外部の有識者、事務局によるシンプルな組織となっています。委員長は取締役会によって選任され（現在は常務取締役のうちの1名が担当）、その諮問機関としての外部有識者（弁護士・会計士など）を置いています。事務局は、京王電鉄の法務部と広報部が務めています。

また、何かおかしいことに気づいたり、悩みを抱えたりした社員が、身近に相談できる窓口として、「京王ヘルプライン」があります。「京王ヘルプライン」は、京王電鉄の法務部コンプライアンス担当と外部の法律事務所の2箇所に設置しており、2006年4月に施行された公益通報者保護法にも対応しています。これらの周知を図るために、行動規範とヘルプラインの連絡先を明記した名刺大のカードを全社員に配布しています。



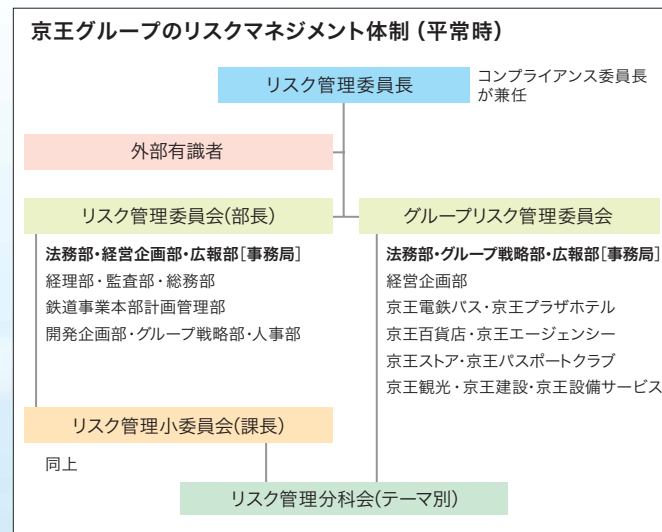
リスクマネジメント

リスクマネジメントに対する考え方

鉄道事業を中心に企業活動を展開している京王グループでは、「お客様の安全」をリスク対策における最重要課題と認識しています。京王グループ理念にある「信頼のトップブランド」にふさわしいリスクマネジメントを実施するため、2005年8月から京王電鉄で先行して取り組みを開始し、2006年8月にはグループとしてのリスクマネジメント体制を構築しました。京王グループでは、リスクマネジメントとコンプライアンスを表裏一体のものとして運営し、リスクマネジメント活動について、コンプライアンスの視点からもチェックしながら推進する仕組みをとっています。

京王グループのリスクマネジメント体制

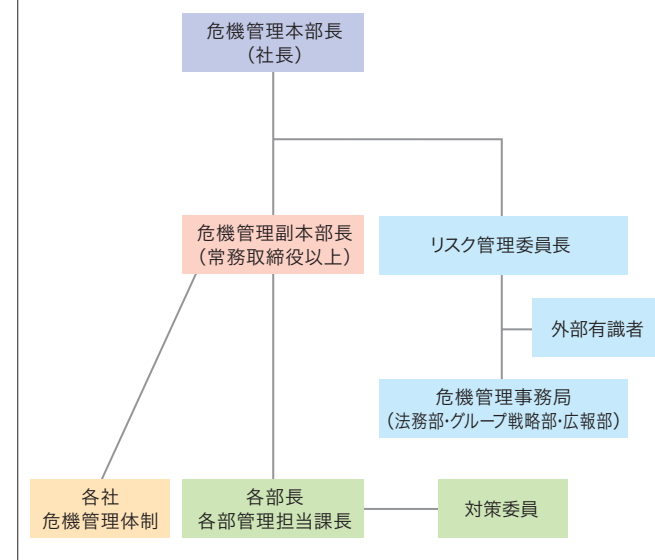
京王グループのリスクマネジメント体制は、平常時の体制と、危機発生時の体制の2つからなっています。平常時の体制は、京王電鉄の部長で構成する「リスク管理委員会」と、グループの主要会社の社長で構成する「グループリスク管理委員会」があり、ともにリスク管理委員長のもとで定例会議を開催し、リスク対策重点項目の設定や、リスク対策の実施状況の確認、リスクマネジメントに関する活動報告などを行います。リスク管理委員長は、コンプライアンス委員長が兼任し、コンプライアンスと表裏一体の活動ができる仕組みになっています。このほか、「リスク管理小委員会」「リスク管理分科会」などの組織を持ち、平常時のリスク対策を実効的に行えるようにしています。



一方、会社にとって重大な危機が発生した場合は、社長を本部長とする臨時組織「危機管理本部」を設置します。

危機への速やかな対応のため、常務取締役以上の役員を危機管理副本部長とし、リスク管理委員長と危機管理事務局が活動をサポートします。グループ各社で発生した危機のうち、重大なものについてはグループ各社の危機管理体制と京王電鉄内に設置する危機管理本部が一体となって対応します。

京王グループのリスクマネジメント体制（危機発生時）



個人情報保護の取り組み

京王グループでは、2005年4月の「個人情報保護法」全面施行にあわせ、「京王グループ個人情報保護方針」を定め、ホームページ上で公開しています。また、個人情報の安全対策を重要な課題と認識し、個人情報が「漏れない」「なくさない」「盗まれない」「改ざんされない」を合い言葉に、各社での個人情報管理体制の強化を図ってきました。さらに2005年度は社員に対する個人情報保護研修を実施し、社員ひとりひとりの知識・意識の向上をはかりました。

※研修についてはP22をご覧ください。

環境保全

環境保全に対する考え方

京王電鉄は、事業活動の結果として、自然環境を害することがないように環境保全について配慮し、可能な限りの措置を講じています。2000年11月に環境基本方針を定め、環境法令遵守はもちろんのこと、各事業の特性に応じた省エネルギー化や廃棄物削減、資源リサイクルなどを積極的に推進してきました。環境問題に対する社会的関心が一段と高まるなか、京王電鉄では環境保全への取り組みはグループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定しました。グループ社員一人ひとりが環境方針の内容、なかでも自分の業務に関わりがある項目について十分理解し、仕事に活かしていけるよう、環境教育などを通じて浸透を図っています。

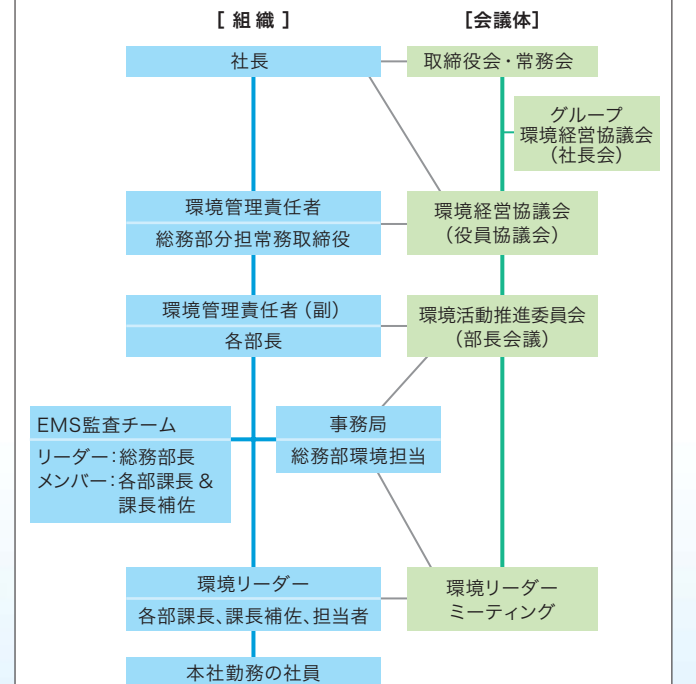
京王グループ環境基本方針

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。

2004年12月9日制定

環境マネジメント推進体制



各々の主な役割

- **社長**／経営資源を投入する、環境方針を制定する、環境管理責任者の指名などにより管理体制を整備する、など。
- **環境管理責任者**：総務部分担常務取締役／環境影響評価の報告を受けるとともに、重点管理項目を承認し、環境経営会議に諮る、など。
- **環境管理責任者（副）**：各部長／各部門の「目標必達システム設定表／管理表」の作成を指示し、内容を承認する、など。
- **環境リーダー**：各部環境WGメンバー／環境影響評価を実施し、実行計画・手順書を策定する、など。
- **本社勤務の社員**／「目標必達システム設定表／管理表」に記載された実施責任者の指示のもと、ルールに従って環境活動を実施する。

京王電鉄の鉄道事業は、「京王線」と「井の頭線」などからなり、東京都西部地域を中心に神奈川県北部にも一部またがる84.7kmの路線を、1日約167万人のお客様にご利用いただいています。私たちは、すべてのお客様に安心してご利用いただけるよう、さまざまな安全施策を実施しています。

※最新の取り組み、今後の取り組みについてはp5-6をご覧ください。

ATSによる列車の衝突防止対策

列車の衝突を防止するため、全線に多情報変周式ATS(Automatic Train Stop:自動列車停止装置)を採用しています。このATSは信号の表示パターンに対応する速度をチェックし、決められた速度を超えた場合、自動的にブレーキがかかり、速度を下げる方式です。また、ATSの仕組みを応用して、過走や誤出発、列車種別の勘違いを防止する装置を設置しています。さらに車両には、停車駅の接近告知や停車警告などにより、停車駅を誤って通過することを防止する装置のほか、運転士が不測の事態によりハンドルから手を離れた場合、自動的に非常ブレーキがかかり列車を停止させる装置、車掌が強制的に非常ブレーキをかけることのできる装置を搭載しています。

列車の脱線防止対策

車両の脱線防止策

左右の車輪にかかる荷重のばらつきを計測する輪重測定装置を導入し、荷重の適正なバランスを保つよう調整を行っています。また、車輪の形状については、脱線防止対策として推奨されている形状のものを従前から使用しています。



脱線防止のガードレール

線路の脱線防止対策

半径300m以下の曲線、道床のない橋梁、踏切などにガードレールを設置しています。また、定期的に検測機器による計測管理を行い、適正な線路の状態を保つよう努めています。

鉄道総合指令所

鉄道総合指令所には列車を運行する運転指令と、電力の供給を管理する電力指令の機能を有しており、平常時だけでなく、事故や災害時の対応を迅速に行うことができるよう、連携を

強化する体制を整えています。なお、鉄道総合指令所の建物には免震機能や落雷を防止するシステムを備えています。

運転指令

列車の運行を円滑に行うため、TTC(列車運行管理システム)により、列車の進路設定、出発指示合図、行先案内板、旅客案内放送などを自動制御するほか、雨量・風速・地震等の様々な条件等の収集・把握を行っています。事故の発生時などには、列車の位置や遅れなどを総合的に判断し、運行ダイヤの整理・復旧を指示します。また、乗務区などには列車の位置や遅延などの状況を表示するモニターを設置しており、お客様の案内などに活用しています。



TTC(列車運行管理システム)

電力指令

電力指令では、列車運転用電力と、駅設備や信号保安設備などに用いる付帯用電力を供給する18箇所の変電所の運転状態や送電状況を集中監視制御システムにより監視し、万一の事故や停電のときは、ただちに予備の施設への切替などを行い、列車運転への影響を最小限にするなど電力の安定供給確保に努めています。

自然災害対策

地震対策

沿線5箇所に設置した地震計のうち、いずれか2箇所以上が震度4以上の地震を感知した場合、地震情報早期伝達システムが作動し、列車の乗務員へ無線により自動的に警報を伝えることで、列車を迅速に停止させます。その後、震度に応じて必要な点検を行い、時速25km以下の注意運転を行うとともに、状況に応じて順次通常運転に復旧していきます。また、阪神・淡路大震災後の緊急耐震補強を1996年度に完了していますが、新たな耐震基準に見合う構造物とするため、引き続き高架橋柱などの耐震性向上策を行っています。

風対策

沿線各所に風速計を設置し、瞬間風速が15m/s以上を示した場合に段階的に速度規制を行い、瞬間風速が25m/s以上になった場合は運転を中止するなどの措置を行います。

雷対策

線路内の電気設備への落雷を防止する対策として、電車線より一段高いところに避雷針の役割を果たす防護線の設置を進めています。

雪害対策

従来のひし型パンタグラフを、着雪の少ないシングルアーム/パンタグラフに順次改良しているほか、雪がつもりにくい形状の電線を用いています。また、車両基地の電車線は着雪・着氷を防ぐためのヒーターを設置しています。



シングルアーム
パンタグラフ

ホーム安全対策

間隙注意灯、スレットライン

曲線ホームなど、車両とホームとの間隔が広く開いてしまう場所での乗り降りにご注意いただくため、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯、スレットラインを新宿駅など15駅に設置しています。



隙間をお知らせするスレットライン

列車接近放送装置

列車がホームに接近していることを音声でお知らせする装置を全69駅に設置しています。

車両外幌

ホームから車両連結部へ転落する事故を防ぐため、すべての車両の連結部に外幌を設置しています。



車両外幌

非常通報ボタン、転落検知装置

万一、お客様がホームから転落した場合などに、駅係員またはお客様がホーム上の「非常通報ボタン」を押すことにより、乗務員などに非常を知らせる装置を全駅に設置しています。また、車両とホームとの間隔が広く開いてしまう駅には転落を検知するマットを設置しています。



非常通報ボタン

ホーム下退避スペース

ホームの下には緊急時に避難することができる退避スペースを設置しています。また、退避スペースのないすべての箇所には、ホー



ホーム下退避スペース

ムに上がりやすくするためのホーム下ステップを設置しています。

踏切安全対策

踏切解消への取り組み

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や踏切道の整理統合による踏切の解消を図っています。連続立体交差化については、1964年に京王線の新宿～初台間を地下化したのを皮切りに事業を順次進め、1993年3月に長沼・北野駅付近を、また1994年3月には府中駅付近をそれぞれ高架化しました。立体交差化などによる踏切道の整理統合の結果、踏切数は1955年度の322箇所から1998年度末には156箇所に減少し、現在に至っています。

踏切障害物検知装置

しゃ断桿が降りた後に、踏切道内に立ち往生した自動車などの障害物を検知することができる踏切障害物検知装置を91箇所の踏切道に設置しています。



踏切障害物検知装置

踏切支障報知装置

踏切内で事故発生の危険性が生じた場合に、ボタンを押すことで列車の運転士に異常を知らせることのできる踏切支障報知装置を142箇所の踏切道に設置しています。



踏切支障報知装置

くぐりぬけ防止啓発テープ

しゃ断桿が下りた後の踏切内への進入を防ぐため、全踏切のしゃ断桿にくぐりぬけ防止の啓発テープを設置しています。



くぐりぬけ防止啓発テープ

踏切道の歩道部分のカラー舗装化

踏切内における歩行者の安全確保のため、踏切内の車道と歩道を明確に区分するカラー舗装化を歩道のある全ての踏切に実施しています。



歩道部分のカラー舗装化

各種訓練・火災訓練

防災週間(8月下旬～9月上旬)にあわせて総合防災訓練を実施しているほか、韓国の地下鉄火災を教訓とした地下駅火災訓練、事故発生に備え正確で迅速な情報伝達、および速やかで適切な対応を目的とした現業による合同訓練、大規模事故が発生した際の情報連絡に重点を置いた本社部門を対象とする緊急対応訓練を実施しています。

京王電鉄バスグループの安全対策

高齢者から子どもまで、身近な交通手段として利用されることが多いこともあり、京王電鉄バスグループでは、特に発車・停車時の車内転倒事故や右左折時の交通事故など、さまざまなリスクを排除・管理し、安全の確保に努めています。乗務員に対する安全・接客教育をはじめ、出勤・出庫・途中休憩・終業時の健康状態チェック、当日の道路工事箇所など運行ポイントの確認、車内放送の積極的活用、営業所ごとに事故防止委員会を設置し、乗務員同士の相互添乗、危険箇所のハザードマップ作成などを実施しています。さらには、信号調整やバスレーン設置のための関係省庁への働きかけ、ノンステップバスの積極導入※などに取り組んでいます。

※ノンステップバスの導入については、p18をご覧ください。

京王自動車の安全対策(タクシー・ハイヤー)

タクシー・ハイヤー会社にとっても、事故の撲滅は最重要課題のひとつです。京王自動車では、従来から会社と労働組合が一体になって、乗務員の危険予知トレーニングや個人指導など、さまざまな安全対策を講じてきました。さらに2005年6月には、「ドライブレコーダー」を全車約1,000台に装備。これは、ルームミラーにカメラを設置し、運転中の進行方向の動画を記録する装置で、事故原因、事故状況を映像で確認することができます。

京王自動車ではドライブレコーダーを、どうすれば事故防止に活用できるか、本社と現場が一体になって検討しました。これにより、約2,000人・200班の乗務員が、各人のヒヤリハット映像を見ながら安全対策を検討する、乗務員参加型の新しい安全教育が生まれました。この教育成果は、警視庁が主催する「セーフティドライバー・コンテスト」の安全達成率が、東京都のタクシー事業者の約9割が加盟する東旅協(東京乗用旅客自動車協会)の全体値は年々下降するなか、京王自動車の達成率は大きく上昇するなど、数字で表れてきています。現在、この活動を標準化し、全社に定着させるためのマニュアル化を推進しています。

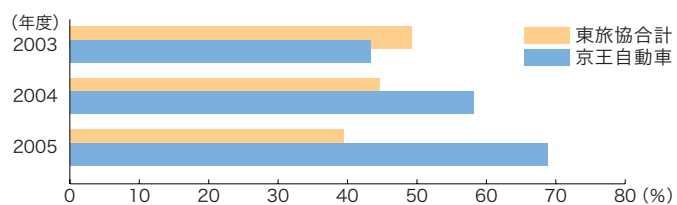


ドライブレコーダー



ドライブレコーダーを活用した乗務員参加型安全教育

セーフティドライバー・コンテスト達成率の推移



(%)

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

東旅協合計 京王自動車

(年度)

2003 2004 2005

0 10 20 30 40

京王グループでは、すべてのお客様に、鉄道やバス、タクシーといった交通手段を快適にご利用いただけるよう、バリアフリー化などを推進しています。
また、百貨店やホテルといった商業施設においても、積極的できめ細かな施策を講じています。

京王電鉄の快適性向上

よりスムーズに移動していただくための取り組み

エレベーター、エスカレーター

駅構内にエレベーター、エスカレーターなどの設置を進めています。エレベーターは36駅に80基、エスカレーターは29駅に106基設置しています。



車両とホーム床面の段差縮小

車両とホーム床面との段差を小さくし、乗り降りをしやすくするために、新宿駅など一部の駅でホーム床面のかさ上げを行いました。また、車両とホームとの間に渡す車いす用スロープ板を全駅に備えています。このほか、車いすスペースを京王線9000系車両8000系車両と井の頭線1000系車両の全編成に設置しており、7000系車両についても車体改修にあわせて設置を行います。

幅広自動改札機

車いすをご利用のお客様や大きな荷物をお持ちのお客様などにご利用いただけるよう通路幅を広くした自動改札機を39駅に設置しています。



幅広自動改札機

よりわかりやすいご案内への取り組み

列車運行情報サービス

事故や災害などにより、列車の運行に大幅な遅延が発生した場合などに、全駅の改札口や一部の電車内に設置した電光表示板のほか、京王のホームページや携帯電話のサイト「京王ナビ」などにより、運行情報をお知らせするサービスを行っています。

行先案内板

列車種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする行先案内板を、急行系停車駅を中心とした27駅に設置しています。



行先案内板

触知総合案内板

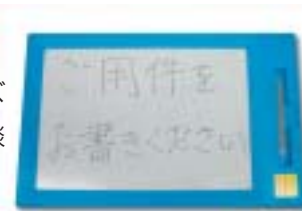
駅構内の配置をどなたにでもご確認いただけるよう凹凸・点字・ピクトグラム（絵文字）を用いた案内板を30駅に設置しています。



触知総合案内板

筆談器

耳の不自由なお客様にスムーズな案内ができるよう、全駅に筆談器を備えています。



筆談器

車内電光表示板・ドアチャイム

車内のお客様に次の停車駅などを文字でお知らせするLED式の電光表示板と、車両のドア開閉を音でお知らせするドアチャイムを、新造する京王線9000系車両・井の頭線1000系車両のほか、既存の車両にも順次設置しています。



車内電光表示板

快適にご利用いただくための取り組み

だれでもトイレ

現在59駅に、車いすをご利用のお客様にもお使いいただける個室トイレがありますが、このうち55駅のトイレは、赤ちゃんをお連れのお客様などが安心してご利用いただけるよう、折りたたみのベッドや乳児用のいすを設置しています。これらのトイレのほとんどは、入口付近で点字による案内を行っているほか、内部障がいをお持ちのお客様にご利用いただける水洗器具を設置しています。



だれでもトイレ

ホーム待合室

電車到着までの間、お客様が快適にお待ちいただけるよう、冷暖房付きの待合室を45駅80箇所を設置しています。



ホーム待合室

女性専用車両

2000年12月の週末に試行運転を実施し、その結果を踏まえて、2001年3月のダイヤ改定にあわせて、平日23時以降に新宿駅を発車する急行系列車の最後部1両を女性専用車両といたしました。2005年5月からは、女性専用車両を平日朝・夕の通勤時間帯に拡大しています。



女性専用車両

おもしろゾーン

京王線・井の頭線全車両で、車内の優先席位置の明確化と、その付近での携帯電話の電源「OFF」など人に優しい車内環境の整備を目的に、優先席付近の吊り皮やシートの色を変えたおもしろゾーンを設置しています。



おもしろゾーン

定期券の全駅発売（インターネット予約）

全69駅で定期券（通勤定期券および継続発売となる通学定期券）の発売を実施するとともに、京王ホームページ上で、新規通勤定期券の予約ができるサービスを実施しています。

お忘れ物の取り扱い

駅や電車中での忘れ物を保管するため、お忘れ物取り扱い所を設置しています。また、「お忘れ物管理システム」により、お忘れ物の有無を全駅で確認いただけます。

マナー向上への取り組み

京王マナー川柳

1998年からスパイスの効いた川柳と、漫画家・やくみつるさんのユーモアあふれるイラストで、電車やバスのマナーアップを呼びかけています。2001年からは川柳の一般公募を開始し、多くの方々からの作品が寄せられています。



終日全面禁煙

健康増進法の施行に伴い、受動喫煙を防止するための措置として、終日全面禁煙を全69駅構内で実施しています。

啓発活動

切符の買い方や電車の乗り方など電車の利用方法と、電車を利用する際のルールやマナーについて、子供たちにより理解を深めてもらうために、「交通安全教室ビデオ」を運転士自身が製作・出演し、沿線の小学校・幼稚園で啓発活動を行っています。



交通安全教室ビデオ

京王電鉄バスグループの快適性向上

京王電鉄バスグループでは、だれもが乗り降りしやすいバスを目指して、1998年からノンステップバスの導入を開始し、2006年3月末時点で409両に拡大。一部は、乗降時に車体が傾斜し、さらに乗降しやすいニーリングタイプとなっています。これに加え、218両のスロープ板付きワンステップバス、39両のリフト付きバスを導入しており、バリアフリー対応バスの導入率は、民間バス会社ではトップクラスの92.8%（全718両中666両）となりました。

また2005年11月から、都内では初めてベビーカーを広げたまま乗車できるサービスを開始しました。従来は、緊急時における急ブレーキの際の安全確保の観点から、必ずベビーカーは折りたたんで乗車いただくようお願いしてきましたが、小さなお子様を連れてさらに買物袋を下げてなどという場合にどうにかならないかとのご要望が多かったため、乗務員が座席とベビーカーをベルトで固定させていただくことで対応しました。



ノンステップバス

京王電鉄では、積極的なIR活動に取り組んでいます。
また、株主の皆様へ、京王電鉄およびグループ各社に対するご理解を深めていただけるよう、
充実した株主優待制度をご用意しています。

京王自動車の快適性向上(タクシー)

京王自動車では、2005年12月から「サポートCab (キャブ)」のサービスを開始しました。これは、「救急車を呼ぶほどではないけれど、病院に行きたい」という方の入院・通院・退院時などに、救命手当の技能を持つドライバーが対応するサービスです。東京消防庁は、増加する救急車要請の削減を目指しており、多摩地区での参加要請に応えるかたちで実現しました。調布営業所、八王子営業所、多摩中央営業所など、東京消防庁から救命講習受講優良証を交付された9事業所で、サポートCabのサービスを実施しています。



サポートCab

京王百貨店の快適性向上

京王百貨店は、シニア層のお客様にも安心・快適にご利用いただけるよう、エスカレーターのスピードを遅めに設定したり、各階に休憩場所を設けるなど、きめ細かな対応を行い、多くの支持を得ています。バリアフリーの視点では、新宿店の1997年の改装に伴い、正面玄関わきにスロープを新設、ならびに一部のエレベーターを車いす対応としたことに始まり、1階から8階までの各階に「だれでもトイレ」を設置したことや、お客様用階段への二段手すりの設置などを行いました。お取引先に対しても「売場改装指針書」に基づき、床のフラット化や配線のカバー、フィッティングルームの大型化や手すりを設置することなどをお願いしています。また、店内には、社内研修を継続的に受けている44名の手話ができる社員が接客に当たるほか、8階の介護用品売場では介護福祉士がお買物のお手伝いをしています。社員教育に関しては、2001年よりNPO「プレジャーサポート協会」の協力を得て、「ハートフル・サポーター研修」を実施しています。セミナーに加え、視覚・聴覚障がい、車いす疑似体験や高齢者疑似体験などを行っています。これまでに営業部門の管理職・一般社員のほぼ全員が研修に参加しました。また、2005年4月からはお取引先販売員も研修の対象としました。今後も、社員教育とともに売場の改装に伴う施設のバリアフリー化を進めていきます。

京王プラザホテルの快適性向上

京王プラザホテルのバリアフリーに関する取り組みは、1988年世界リハビリテーション会議の開催会場となったことが端緒となりました。施設の改修や接客についての取り組みを客室担当を中心に進め、1998年からは、新入社員教育にも障がいのあるお客様の接客の心構えを研修に取り入れられました。2002年には、ユニバーサル・ルームを15室から25室に増室しました。同年、全社的な取り組みとして「バーズアイ」という社内公募によるプロジェクトも立ち上げました。これは、バリアフリーとエコロジーを体験し、社内を啓発していくためのグループで、1年を任期とした若手社員を主要メンバーとする約20名で構成されています。例えば、実際に障がいのある方をホテルにお招きし、どのように接客すれば安心していただけるかなどについてご意見をいただく体験・研修などを行っています。2005年度は、音声で地図をつくるNPO「ことばの道案内」の協力により新宿駅からホテルまで音声による道案内やガイドヘルプ体験をしたほか、日本盲導犬協会より盲導犬のトイレの設置場所に対するアドバイスをいただくなどしました。ハード面での整備としては、ユニバーサル・ルームにさらに備品を追加しました。具体的には、車いすをご利用のお客様に使用していただくバスタブへの移乗台をご用意したほか、電動式起き上がりいすを3室から10室に、3モーター式ベッドを3室から8室に増設しました。また毎年2月にチャリティーイベント「ボランティア・プラザ」を開催しており、近隣および沿線の皆様にボランティアに触れていただくと同時にスタッフの学びを深める機会とさせていただいています。



手話による接客



ユニバーサル・ルーム内

適時適切な情報開示

四半期ごとの業績開示をはじめ、年2回の決算説明会の開催、インベスターズガイド「けいおう」やアニュアルレポートの発行を通じて、財務や株式、営業の概況に関する情報を積極的に開示しています。こうした開示資料やニュースリリースについては、ホームページ上でも公表するなど、適時適切な情報開示に努めています。また、株主・投資家の皆様への情報開示を行うにあたっての基本的な考え方として、2006年4月「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、本ポリシーに掲げる内容の実現を図るため、ディスクロージャー委員会を設置しました。



インベスターズガイド「けいおう」

● ディスクロージャー・ポリシー

当社は、株主・投資家の皆様へ、当社の企業価値を適正に評価していただくため、適時適切な情報開示に取り組んでまいります。

(1) 証券取引法、会社法および東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」に則って情報を開示いたします。

- (2) (1)に該当しない情報についても、株主・投資家の皆様の判断に大きな影響を及ぼすと考えられる重要な決定事実、発生事実などの情報は積極的に開示いたします。
- (3) 情報の開示は迅速に行うとともに、株主・投資家の皆様に公平に伝達されるよう努めます。
- (4) 開示情報の内容については、正確性、明瞭性、継続性を重視いたします。
- (5) 開示した情報に対する株主・投資家の皆様からの声を社内で共有し、適切に経営に反映させるよう努めてまいります。

株主優待の実施

株主の皆様へ、京王電鉄およびグループ各社の事業をより深くご理解いただくために、株主優待として「株主優待乗車証」やグループ各社でご利用いただける「株主割引優待券」を発行しています。また、2005年度に株主優待乗車証の発行を「1,000株以上」に引き下げるなど内容の見直しを実施しました。

株主優待制度	株主優待乗車証	
	1枚1乗車有効の電車全線優待乗車券	優待バス
所有株式数 1,000株以上～30,000株未満	1,000株につき4枚	—
30,000株以上～57,000株未満	30枚	電車全線優待バス1枚
57,000株以上～	40枚	電車・バス全線優待バス1枚

さらに1,000株以上の株主の皆様は、グループ会社優待割引をご利用いただけます。

- 京王百貨店
- 京王自動車
- 京王グリーンサービス
- 京王プラザホテルチェーン
- 京王運輸
- 京王食品
- 京王観光
- 京王アートマン
- 京王不動産

京王電鉄は「信頼のトップブランド」を目指していますが、
実際に、お客様や取引先、地域社会とつながっているのは、一人ひとりの社員です。
私たちは、一人ひとりの社員が自立した人材となり、仕事を通じて社会的責任を果たしていけるよう、
さまざまな社員研修や仕組みづくりに取り組んでいます。

誰もが働きやすい職場づくり

健康管理

社員ならびに家族の健康維持・増進を図り、疾病を予防するために、聖蹟桜ヶ丘に「京王電鉄診療所」を開設し、内科健診、定期健康診断などを実施しているほか、産業医を中心とする職場訪問も行い、京王グループ各社の健康相談、生活指導、職場環境づくりの支援を行っています。また、社員のメンタルヘルスチェックを定期的実施し、ケアのための相談窓口を設置するなど、心身両面のケアを行っています。

女性の登用

京王電鉄は1987年以降、毎年4年制大学卒の女性を総合職として採用しているほか、鉄道部門においても女性の採用を進めています。2006年6月末現在、6名が課長に就任しているほか、13名が鉄道乗務員として勤務しています。

保育施設

女性が働きやすい環境づくりと、男女を問わずグループ社員の育児を支援し、仕事と育児の両立を促すために、2006年9月、事業所内保育所「サクラさーくる」を開設しました。この保育所は、京王電鉄本社ビルや京王百貨店、京王ストアなどの事業所が集中する聖蹟桜ヶ丘にあり、運営は実績豊富なポピンズコーポレーションに委託しています。定員は20名程度、生後57日目から6歳(就学前)を対象としています。



サクラさーくる

育児休職制度

子どもを養育し、引き続き勤務する意思のある社員が育児に専念するために、子どもが満1歳に達して以降最初の4月15日まで休職できる制度を設けています。また、子どもを養育するものの、この制度を利用しない社員に対して、超過勤務を命じないことや、休職復帰後の社員に対する育児のための就業時間などに関する措置(子どもが3歳まで・小学校就学前まで・小学4年まで)についても今後推進を図り、仕事と家庭がより両立できる職場づくりに努めます。

障がい者の雇用

障がい者の雇用促進は、企業の社会的責任を果たすうえで非常に重要な課題であるという認識のもと、障がいの内容などに合った仕事内容、作業環境、勤務時間などの見直しを通じて、障がい者の安定的雇用に努めています。2004年4月には、個々の障がい者に配慮した就労環境を整えやすい特例子会社の設立に向けて、人事部に特例子会社準備チームを設置し、雇用のノウハウなどを学ぶとともに、12月には特例子会社「京王シンシアスタッフ」を設立。2006年6月現在、障がい者19名が社内施設の清掃業務などに従事しています。京王電鉄の障がい者雇用率は、法定雇用率1.8%を超える2.59%となっています。



京王シンシアスタッフ 作業風景

CSRに関する教育・研修の充実

人権セミナー

京王グループでは、1982年から年1回社内にて同和研究会を実施してきました。2005年度からは、人権セミナーとして同和問題とセクシャルハラスメントを主体としたあらゆる差別問題に関するセミナーへと発展させました。2006年5月11日・12日に実施した人権セミナーには400名が参加。外部の講師を招き、同和問題、セクシャルハラスメント、障がい者、高齢者、外国人、HIVなどさまざまな差別問題について、企業としての対応に関する正しい理解と認識を深めました。なお2006年度からは、管理・監督者や業務経験の豊かな社員を対象としたコースと、新入社員など業務経験の少ない社員を対象としたコースに分けて開催しています。

個人情報保護研修

2005年度は京王電鉄社員およびグループ社員に対して、約20回にわたり個人情報保護研修を実施しました。研修では個人情報保護法が制定された背景や法律の概要の説明、日常業務での注意点についての〇×チェック、個人情報の漏洩防止、安全管理の重要性の周知を行いました。さらに社内報に特集記事を掲載したり、社内のイントラネットにQ&Aをアップするなど引き続き個人情報保護法についての情報を発信し、理解を深めてもらえるよう努めています。

コンプライアンス・テーマ別講習会

実務に関係の深い法律やその改正内容について正しく理解し、コンプライアンスの実践に役立てるため、弁護士等を講師に招いて講習会を実施しています。2005年度は「借家契約にかかる実務」「公益通報者保護法について」をテーマに実施しました。2006年度は「著作権・商標権について」をはじめとして、年間3回程度の実施を予定しています。

環境教育

環境教育は一般教育、手順教育、専門教育の3つに分類されます。一般教育は、現代の環境問題やISO、環境マネジメントシステム(EMS)を知ることから始まり、京王電鉄の環境方針

や自らの役割などを理解し行動するために実施しています。2005年度はグループ各社を含む新入社員161名のほか新たに本社で勤務する部長以下の社員190名が受講しました。受講後は理解度チェックや質疑応答による教育効果の確認もあわせて実施しています。

専門教育では、各部でEMSが正しく運用され、有効であることをチェックする「EMS監査員」を養成しています。教育は終日かけて行われ、2005年度は新たに11名が課程を修了しました。

救命講習

消防署と東京救急協会の協力により、定期的に救命講習を開催し毎回20~30名が受講しています。2005年1月からはAED(自動体外式除細動器)の取り扱いも取り入れられ、本社及び現業職場の50%以上の社員が有資格者となっています。駅構内や電車内などで倒れられたお客様にも心肺蘇生を行うなど、人命救助に役立っています。



救命講習

社員の自己啓発の促進・支援

通信教育

社員の自己啓発を目的に、通信教育講座を開講しています。受講した講座を修了すると、受講料の半額が給付されるなど、興味を持ったことに挑戦しやすい制度となっています。毎年4月に講座の見直しを行い、高齢化社会を迎えニーズの高まっている「サービス介護士の資格講座」や、ストレスを上手にコントロールして職場環境を整える「メンタルヘルス講座」など、時代に合った内容の講座を導入しています。受講者数は2003年度104名、2004年度134名、2005年度154名と増加しています。2006年度は、資格取得からビジネススキル、教養まで、全203の幅広い講座を開講しています。

京王電鉄は、企業市民として、地域との連携を通じた社会貢献に取り組んできました。
今後も地域社会や行政などのステークホルダーをつなぐ存在として、環境保全活動やイベントの開催による
地域コミュニケーションの推進などを通して、地域の発展・文化の振興に貢献していきます。

**安全で快適、
楽しく暮らせる地域社会づくりへの貢献**

こども110番の駅

登下校時に子どもたちが巻き込まれる凶悪な事件が多発していることを受け、国土交通省からの要請により、全国の鉄道事業者で実施しています。京王線・井の頭線全駅を、「こども110番の駅」にし、子どもが助けを求めにきた場合に保護し、事情を伺い必要により110番通報やご家族への連絡などを行っています。



京王それいゆ倶楽部

沿線のシニア世代を対象にした「京王それいゆ倶楽部」が、2005年1月にスタートしました。京王電鉄とNPO、協力企業が連携して、各種フォーラムやセミナーの開催をはじめ、コーラスサークルなどの運営や、各種ライフサポートサービスを提供しています。これまでに、フォーラム「日本のこころ 和の精神」の開催を皮切りに、生活美学講座、女性のための健康セミナーなどを開催しました。2006年3月現在、会員数は約700名となっています。

京王グループ感謝祭

京王グループ感謝祭は、お客様や地域社会への感謝・還元イベントで、2006年で13回を数えます。東京オペラシティでのチャリティコンサート「京王音楽祭」をはじめ、聖蹟桜ヶ丘周辺での「せいせきフェスティバル」、グループ各社をより身近に感じてもらう「京王ふれあいパークin多摩センター」など幅広いイベントを実施しています。

京王文化探訪

京王沿線を中心とする歴史・文学・自然にちなんだ名所・旧跡・文化施設などを訪ねて、お客様に地域の文化や伝統に触れていただくことを目的に、1990年から実施している活動で、旅行やセミナー、講演会などを開催しています。

京王フローラルガーデン

京王フローラルガーデン アンジェは、2002年3月、京王多摩川駅隣に誕生し、今年で5年目を迎えました。約5,000坪の園内は、モネの池をイメージしたウォーターガーデン、ベルサイユ宮殿にある「愛の神殿」をモチーフにしたボンドガーデン、モクレン・コブシなど30種類200本が植栽されたマグノリアガーデンなど、表情の異なる15のガーデンで構成された欧風庭園となっています。
また、四季を通し、イベントセミナールームではテラコッタ陶芸教室をはじめ各種ガーデンセミナー、親子で楽しめる押し花教室や工作クラブなど各種体験会を開催しています。

高尾をテーマにした環境保全・社会貢献活動

「高尾の森再生」ボランティア活動支援

日本山岳会「高尾の森づくりの会」は、裏高尾の小下沢風景林をフィールドに、50年、100年の計画で、多様で豊かな森の復元を目指してボランティア活動を続けています。京王電鉄は、この会の趣旨に賛同し、2002年から活動を支援するとともに、毎年約1,500本の広葉樹の植栽をお手伝いしています。



植樹の様子

京王クリーンキャンペーン

地域の貴重な自然環境の保全を目的に、1991年から、春は高尾山、秋は多摩川の清掃を行う「京王クリーンキャンペーン」を継続的に実施しています。グループ社員をはじめ、沿線地域の皆様や一般の方々にも多数参加いただいています。近年では、高尾山を訪れる方々のマナーが向上し、ゴミの持ち帰り運動が定着しています。



京王クリーンキャンペーン

高尾の森わくわくビレッジ

高尾の森わくわくビレッジは、2005年4月、八王子市に誕生した体験学習施設です。2004年3月に閉校した旧都立八王子高陵高校の建物を活用し、新たに社会教育の場とする目的で、東京都がPFI※方式で企画し、京王グループが社会教育の分野で豊富な実績をもつ東京YMCAグループとともに運営しています。
緑に抱かれた約65,000㎡の環境を活かし、学校、子ども会、スポーツチームの青少年団体、大学生や地域サークルなどが、合宿やキャンプといった様々な活動を一年通じて楽しんでいます。
2005年度は、東京都と共催する社会教育事業として、父親と子どもの絆を強める「おやじと子のわくわく親子キャンプ」、ひとり親家庭を対象にした「わいわい子育てキャンプ」、災害時の避難生活を疑似体験する「1泊避難体験 防災意識を高めよう」などを実施しました。子どもたちをはじめ、訪れた方々が「自然にふれ、人とかかわり、新しい明日をみつける」きっかけとなる場を提供しています。



サバイバー入門キャンプで、竹の食器を作っている様子

※PFI：民間資金主導型の公共施設整備手法で、民間の資金とノウハウを活用して、効率的で効果的な公共サービスを提供する仕組み。高尾の森わくわくビレッジは、私鉄では都内で初めてのPFI事業です。

高尾山薬王院での子どもたちの修行体験合宿

高尾山は、明治の森高尾国定公園の中心となる標高599mの山で、山岳信仰の霊場として1200年もの歴史があります。京王電鉄は、1970年から毎年、高尾山薬王院で子どもたちが修行を体験する「高尾山峰中修行体験合宿」を主催しています。子どもたちにとっては、座禅・法話・写経・入滝など、学校の教室では得られない体験をする機会となっているようです。



沿線の子どもたちが参加する「高尾山峰中修行体験合宿」

京王グループを知っていただくために

鉄道施設の見学会を開催

車両の検査・修理を行う若葉台工場などに小学生とその保護者の方をご招待して、見学会を開催しています。京王電鉄の企業活動を、より深くご理解いただくことを目的としており、今後は環境保全などについてもアピールしていきます。



若葉台工場での見学会

京王れーるランド

多摩動物公園駅にオープンした「京王れーるランド」は、2005年3月で5周年を迎えました。縦4m×横7mの9ミリゲージ大型レイアウトで、運転士が実際に使っている電車のハンドルで鉄道模型の運転ができるコーナーをはじめ、プラレールコーナーや京王オリジナルグッズの販売コーナーを設け、鉄道により親しんでいただけの内容になっています。



京王れーるランド

社会環境ポスター

「もっと住みよい地域へ、地球へ」と題したシリーズで、京王の社会環境活動をご理解していただくために、駅のポスターや電車内中吊で告知しています。



社会環境ポスター

京王電鉄では、協力会社や行政に対しても「信頼のトップブランド」となるべく、積極的なコラボレーションを進めています。軌道工事や土木・建設工事を委託する協力会社に対して安全教育を実施し、工事の安全性確保に努めています。また、グループの総合力を生かし「沿線地域社会の発展に貢献できること」、そして「京王グループ理念に合致する事業であること」という視点を持ち、自治体とのコラボレーションを行っています。

協力会社とつながりあう

軌道工事を委託する協力会社の作業員に対しては、新人教育をはじめ、定期的な安全教育を実施しています。作業中に列車が近づいたときに笛を吹き、旗を振って作業を中断・退避させる列車監視員に対しては、年1回の教育を実施しています。また、土木・建築工事を行う作業員に対しては、工事に先立って安全教育を行うほか、工事が長期にわたる場合は年1回程度の安全教育を実施しています。さらに、軌道工事、土木・建築工事ともに、ゴールデンウィーク、お盆休み、年末休暇前には安全総合点検を実施し、現場の閉鎖（休みの間、立ち入れないようにする）を確認しています。

行政とつながりあう

杉並公会堂

杉並公会堂の老朽化に伴う杉並区のPFI公募に対して、京王設備サービスと大林組が共同で落札し、2006年6月に新しい杉並公会堂がオープンしました。阿佐ヶ谷がジャズのシンボルタウンであるのに対し、荻窪の杉並公会堂は日本フィルハーモニー交響楽団のフランチイズホールということもあり、クラシックの拠点と位置付けられています。この公会堂は、1,189席（車いす席を含む）の大ホールのほか、小ホール、スタジオなどを備えています。京王設備サービスは施設の維持管理だけでなく、京王エージェンシーをはじめとするグループ会社の協力のもと、コンサートやイベントなどの企画・運営も手がけ、地域社会の文化振興に貢献しています。



杉並公会堂

エコ・ステーション永福町

2003年3月に、杉並区初となるCNG（圧縮天然ガス）スタンド「京王エコ・ステーション永福町」の営業を開始しました。このCNGスタンドは、杉並区役所の公用車や、京王電鉄バスグループのバスのほか、一般の方にもご利用いただいています。



京王エコ・ステーション永福町

災害復興支援

沿線地域社会の一員として、沿線住民の方々の災害復興を、行政を通じて支援しています。東京23区西部地域で2005年9月に発生した集中豪雨によって大きな被害を受けた杉並区に、見舞金100万円を寄贈しました。

コミュニティバス

東京都内では、地方自治体を中心となって数多くのコミュニティバス路線を開設しています。京王電鉄バスグループ・西東京バスグループは、住みやすいまちづくりに貢献するため、コミュニティバスの運行を積極的に受託しています。

1986年に日野市で初めて運行を開始し、その後、多摩市、調布市、あきる野市、杉並区、日の出町、小金井市、国分寺市、八王子市、府中市、渋谷区に運行を拡大しており、2005年度は小金井市「ココバス」の1路線や羽村市「はむらん」などの運行を新たに受託しました。



渋谷区の「ハチ公バス」

「かけがえのない地球環境」を守り、後世代に引き継いでいくためには、私たち企業はもちろん、行政や市民が、それぞれの立場でつながりあいながら、環境負荷の少ない「循環型社会」の構築を目指すことが不可欠です。京王グループでは、グループ全体の活動を推進するために、2004年12月に「京王グループ環境基本方針[※]」を制定するとともに、各事業部門やグループ各社が事業形態に合わせて、積極的に環境保全活動に取り組んでいます。

[※]京王グループ環境基本方針およびEMS推進体制については、p12をご覧ください。

京王電鉄本社ビルの地球温暖化防止対策

2004年度より、京王電鉄本社ビルの環境マネジメントシステムの構築を開始しました。照明のインバータ化やゴミの分別・リサイクルなど、総務部が中心となったビル全体での取り組みに加え、省エネや紙削減といった2006年度目標[※]を部署ごとに設定し、全員がもれなく活動に参加する仕組みを構築しています。

[※]2006年度環境目標についてはp33をご覧ください。

商業施設などの地球温暖化防止対策

ショッピングセンターでは、省エネ型エレベーター・空調・照明機器、ガラス面遮熱シートの導入、事務所内での夏季軽装勤務などを実施しています。また、オフィスビルなどの賃貸物件に関しては、空調機のインバータ化など電力使用量の削減に努めているほか、トイレの自動水栓化、雨水・雑排水の再利用など水使用量の削減も進めています。

京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターの環境保全

京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターでは、沿線の身近な地域環境の保全が、地球環境の保全につながるという考えを、テナントやお客様と共有しながら、活動を推進しています。

テナントの分別意識啓発

テナント店長会などでゴミ分別の重要性を説明するとともに、2005年1月から分別徹底と排出量抑制のために、ゴミの処理費用を重量に応じていただく形に変更しました。また、排出量の少ないテナントをベンチマークできるよう、全館・全店舗のごみの排出量を開示しています。



テナントのゴミ計量の様子

食品リサイクル法への対応

2005年11月、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター全館が、「京王リサイクルパッケージシステム[※]」への対応を完了しました。これにより食品ゴミの100%、全館の廃棄物の72.5%がリサイクルされています。年間約11トンのCO₂削減効果がある計算になります。

[※]京王リサイクルパッケージシステムについては、P31をご覧ください。



京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターのテナント別・生ゴミ保管所

お客様への啓発

地域のお客様にショッピングセンターや各テナントの環境活動を報告し、またお客様にも環境保全活動に参加していただく「きっかけづくり」の場となることを目的として、2006年6月に「第2回せいせき環境展」を開催しました。今後も環境対応型ショッピングセンターを目指し、自然エネルギーを活用した太陽光パネルを設置するほか、環境イベントなどを通して、地域のお客様と一体になった環境保全活動の推進を図っていきます。



せいせき環境展の様子

西側広場床面に「保水性タイル」を使用

A・B館西側広場床面に「保水機能をもつバリアフリータイル」を採用しました。このタイルは保水性に優れヒートアイランド現象を抑制するほか、段差が少なく、車いすをご利用の方や高齢者の方の通行にも配慮されています。また、広場脇通路床面には「再生材」を使用したエコタイルを採用し、「エコロジー」と「バリアフリー」を実現しました。



保水性タイル

省電力型エスカレーターの導入

B館西側回廊に設置のエスカレーターを省電力型に改修しました。このエスカレーターは、人感センサーにより利用者の有無を判別し、無人のときは通常の3分の1の速度で運転することで、消費電力を従来より約40%削減しました。なお、既設エスカレーターの省電力型への改修は今回のせいせきの事例が日本初となります。

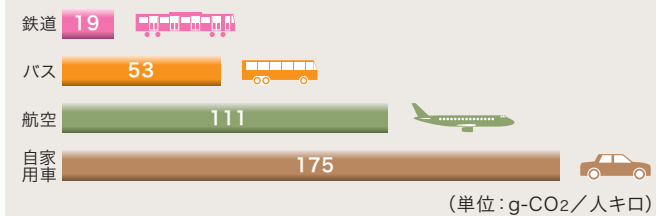


省電力型エスカレーター

鉄道の環境優位性

京王電鉄は、地球環境を守ることが企業の責務のひとつであると考え、環境問題への取り組みを積極的に進めてきました。なかでも鉄道は、比較的環境負荷が少なく、エネルギー効率に優れるため、他の交通手段からの利用転換による環境負荷低減が期待できることから、鉄道の利用促進に向けて、すべてのお客様に安全・快適にご利用いただけるよう努めています。

1人を1km運ぶのに排出するCO₂の比較



出典:「運輸・交通と環境2006年版」(交通エコロジー・モビリティ財団)より

鉄道事業の地球温暖化防止対策

鉄道および駅などの施設を、よりエネルギー効率良く運営することで、地球温暖化防止に貢献しています。

省エネルギー車両の導入

電力を効率的に利用するため、VVVFインバータ制御装置、回生ブレーキを装備した車両を導入しています。

●回生ブレーキ (搭載率: 100%)

回生ブレーキとは、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作用させ、発生した電力を架線に戻してほかの電車が使えるようにするものです。

●VVVFインバータ制御装置 (搭載率: 53%)

VVVFインバータ制御装置とは、架線に流れる直流を交流に変換し、電車の加速力や速度に応じて電圧や周波数を変化させながら交流モーターを動かすものです。これにより電力を効率よく使用できるほか、保守に手がからないという特徴を持っています。回生ブレーキとともに使用することで、従来の車両に比べて約30%のエネルギーが節約できます。

駅の省エネルギー

太陽光発電システムを明大前駅・若葉台駅・高幡不動産車両基地に設置し、自動券売機や照明などの電力として使用しています。また、ホームやコンコースの屋根に自然光を採り入れることができる部材を使用することで、照明の消灯に努めています。さらに、半数以上の自動券売機については、お客様が近づいた際のみ電源が入るようになっているほか、比較的客户様の利用が少ない駅のエスカレーターについてもお客様を感知して自動運転する装置を設置しています。このほか、高効率で消費電力を大幅に抑えた蛍光灯と導光板を用いた、内照式の業務用看板を順次導入しています。

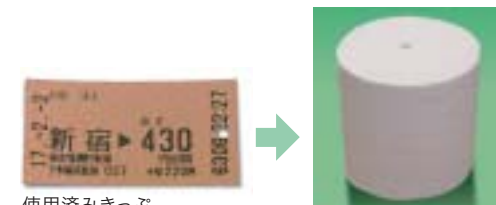


高幡不動産車両基地の太陽光発電システム

省資源・廃棄物削減

乗車券のリサイクル

各駅で回収された使用済みきっぷ(普通券・回数券)をトイレットペーパーに再生し、全駅で使用しているほか、使用済みのパスネットカードなどを材料の一部に用いたベンチをホームや待合室に設置しています。また、駅売店などで回収した飲料用ペットボトルを案内看板に再生し、全駅で使用しています。



使用済みきっぷ

トイレットペーパー1個あたり約60枚のきっぷが使用される

車両・部品洗浄水の節水

若葉台工場では車両や部品の洗浄等に用いる水の使用量を削減するため、「処理水再利用装置」を導入しています。この装置により使用済みの水の汚れを取り除くことで、洗浄水などに再使用することができます。現在、洗浄に用いる水の約40%は本装置により処理されたものです。



処理水再利用装置

騒音・振動の低減

車輪フラット発生の早期発見

雨天時の走行中のブレーキにより、車輪に「フラット」と呼ばれる平らな部分が発生すると、騒音・振動が大きくなります。京王線・井の頭線では、車輪の振動を自動的に検出するセンサーを沿線の各1箇所を設置し、車輪フラットによる振動・騒音の早期発見・早期改善に努めています。



車輪の削正

鉄桁防音対策

鉄製の桁を用いている橋梁においては、下面および側面に防音材を設置するとともに、レールとマクラギの間には防振タイプレートを設置し、騒音・振動の低減に努めています。

ロングレール化

ロングレールとは、200m以上の長さのものをいいます。ロングレール化してレールの継目箇所を少なくすることで、列車の騒音や振動が減り、乗り心地も向上します。これまでに、曲線半径400m以上の敷設可能区間は、長大橋梁を含めロングレール化を完了しています。

化学物質の削減

シンナーの回収

台車や車体を塗装するためにロボットを使用しており、作業後のロボット清掃にはシンナーを用いています。若葉台工場では、ロボット清掃後に排出されるペンキが混ざったシンナーから、シンナーを分離・回収する「溶剤再生装置」を導入し、回収したシンナーを再使用しています。これによりシンナーの購入量は導入前に比べて半減しました。

環境保全

線路わきの環境保全

1991年度から、線路わきの雑草には除草剤を一切使用せず、人力による草刈りを行っています。また、お客様に楽しんでいただく



ことを目的として、井の頭線を中心に線路わきの斜面にサザンカ・ツツジ・アジサイなどを植栽し緑化を進めています。この取り組みは、2001年2月に第7回杉並「まち」デザイン賞を受賞しました。なお、植栽は降雨時の雨水の流入による斜面の崩壊防止にも役立っています。

工場排水の浄化、再利用による節水

工場で車両洗浄などに使用して排出された汚水については、東京都下水道局が定める放流基準値を満たすように排水処理設備で油類・有機物を除去し、下水に放流しています。

京王グループ各社の 環境保全の取り組みについて報告します。

京王百貨店

京王百貨店では、電気使用量、印刷用紙および包装用品の削減、ゴミの減量化・分別の徹底を重点課題としています。電気の使用に関しては環境キャラクター「まめ之介」を使って、社員の省エネルギーのための行動の促進につなげているほか、店内にインバーター照明などを導入し、省エネルギー法や東京都の地球温暖化対策計画書制度^{※1}に基づき設定した目標値、前年比1.5%削減を達成しました。また、新宿店は2004年より、聖蹟桜ヶ丘店は2006年よりライトダウンキャンペーン「ブラックイルミネーション」に参加し夜間のイルミネーションを消灯するなど、意識啓発にも努めています。印刷用紙に関しては両面・縮小コピーの促進などを図っています。包装用品に関しては、計画発注と管理徹底のほか、容器包装リサイクル法の改正を踏まえ、お客様に包装の方法を選んでいただく「スマートラッピング」を提唱し、2006年6月5日の世界環境デーを皮切りに、毎月5日にスマートラッピングのためのイベント等を実施し、これまでに店内ポスターなどによるお客様への啓発や、風呂敷の実演イベント、お中元の風呂敷ラッピングの提案などを行いました。ゴミの減量化に関しては、新宿店で排出された生ゴミから、店内の処理機を使って土壌改良剤「みどりくん」をつくり、東京近郊の農家に配布し、そこで栽培した野菜の一部を販売するというリサイクルを2002年より行っています。また、独自の規準に基づいて、環境に配慮した商品を認定し、「地球にやさしい商品」として展開しています。

ISO14001については、すでに認証を取得している新宿店、初台ビル、幡ヶ谷ビルに加え、聖蹟桜ヶ丘店、外商事業部を含む全社マルチサイト認証を2005年12月に取得しました。



ソラッ、マメに帰ろう！ 環境キャラクター「まめ之介」

京王プラザホテル

京王プラザホテルでは、電気・蒸気などのエネルギー削減、生ゴミなどのリサイクルなどに重点的に取り組んでいます。エネルギー削減に関しては、暖房や給湯に使用する蒸気管のバルブに断熱ジャケットを巻いて熱が漏れないようにしたほか、空調用のモーターを高効率モーターに変更しました。また、電力使用量の大きい宴会場では施設担当者と宴会担当者がきめ細かく連絡を取り合い、空調を調節するなどの施策を実施し、東京都の地球温暖化対策計画書制度に基づき設定した目標値、前年比1%削減を目指しています。生ゴミリサイクルに関しては、「京王リサイクルパッケージシステム^{※2}」による食品廃棄物処理が進み、現在、リサイクル率100%を達成しています。節水に関しては、1日500トンの厨房排水のうち、100トンの中水処理トイレで使用しています。



京王リサイクルパッケージシステムの野菜を使ったメニュー例

※1 地球温暖化対策計画書制度とは「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）」に基づき、温室効果ガスの排出量が相当程度多い事業所を対象に、自主的な目標値を含んだ計画書の提出と公表を求めるとして、温室効果ガスの排出抑制を中心とした地球温暖化対策を進めるもの。

※2 京王リサイクルパッケージシステムに関しては、p31をご覧ください。

京王電鉄バスグループ

バスは鉄道と同じく環境負荷の少ない公共交通機関です。京王電鉄バスグループでは、1997年よりアイドリング・ストップ運動を開始し、翌年以降導入の新車にはアイドリング・ストップ装置を装着しています。燃料については、全営業所で低硫黄軽油を使用しているほか、CNG（圧縮天然ガス）バスを41台導入しています。また乗務員は、早めのシフトアップ、エンジンブレーキの使用など、低燃費走行に努めています。さらに、接遇の向上、路線網の充実、深夜バスなど輸送力の増強、「環境定期券」「ちびっこ50円キャンペーン」といった割引運賃制度など、サービスの向上を通じて環境負荷の少ない交通機関の利用促進を図っています。



CNGバス

京王設備サービス

京王設備サービスが関わる「ビルの総合管理」「鉄道関連施設の保守管理」「設備工事」の各事業分野において、ISO14001の認証取得に取り組んでいます。すでに、神泉本社・京王百貨店事業所・工事事業部門の3拠点で認証を取得しており、2006年度末までには「ホテル管理分野」で京王プラザホテル札幌事業所を、2007年度末までには「大劇場・ホールの企画・運営および管理分野」で杉並公会堂事業部の認証を取得する予定です。

なお、ISOの他分野においては、ISO9001取得に早い時期から取り組み、現在、各事業分野の10拠点で認証を取得し、2006年度末までに5事業所、2007年度末までに6事業所の認証取得追加を予定しています。環境保全とあわせて最高の品質をお客様にお届けするため、全社一丸となった積極的な取り組みを行っています。

京王建設

建築・土木・軌道工事を行う京王建設では、2003年11月より、全事業所においてISO14001の認証を取得しています。大きな環境リスクとして、現場での産業廃棄物分別収集後の混合廃棄物の排出、ホルムアルデヒド[※]などの室内環境汚染物質の発生があげられますが、これらについて数値目標を設定して、抑制に努めています。混合廃棄物の削減では、産業廃棄物の分別スペースの確保、またホルムアルデヒド室内濃度低減に関しては、低ホルムアルデヒド仕様の建材採用率を向上させています。そのほか、低騒音建設機械の導入や排気ガス抑制のために自社および協力会社の車両のアイドリング・ストップを実施しています。

一方、省エネルギーに関しては、照明・空調・OA機器の使用低減を図っています。さらに、府中駅および本社周辺地域のゴミ拾いなどをボランティアで行い、環境美化に努めています。



産業廃棄物の分別収集

※ホルムアルデヒド：人体の遺伝子に影響を与え、強い発ガン性があり、また、喘息、アトピーの原因物質で最悪・最大の汚染物質といわれている。

循環型社会に向けて、 京王リサイクルパッケージシステム。

このシステムは、京王電鉄のショッピングセンターや京王プラザホテルなどの商業施設からの生ゴミを回収・リサイクルし、堆肥や消臭剤にする循環型の仕組みです。

生ゴミから消臭剤・堆肥へ

このシステムは、京王電鉄と外部のパートナーシップで成り立っています。生ゴミの収集・運搬は「(株)北辰産業」、リサイクル処理・堆肥製造は「(株)アグリガイアシステム」との業務提携によって行っています。消臭剤は、京王線・井の頭線のトイレなどで使用しています。また、京王百貨店や京王アートマンなどで販売しています。



バイオ消臭剤「消臭&肥料」

消臭剤・堆肥から野菜へ

消臭剤の脱臭効果がなくなった後は、有機肥料として土に混ぜ、野菜などの栽培に利用できます。また堆肥は、桜ヶ丘カントリークラブの芝に使用するなど、京王



生ゴミからつくられた堆肥

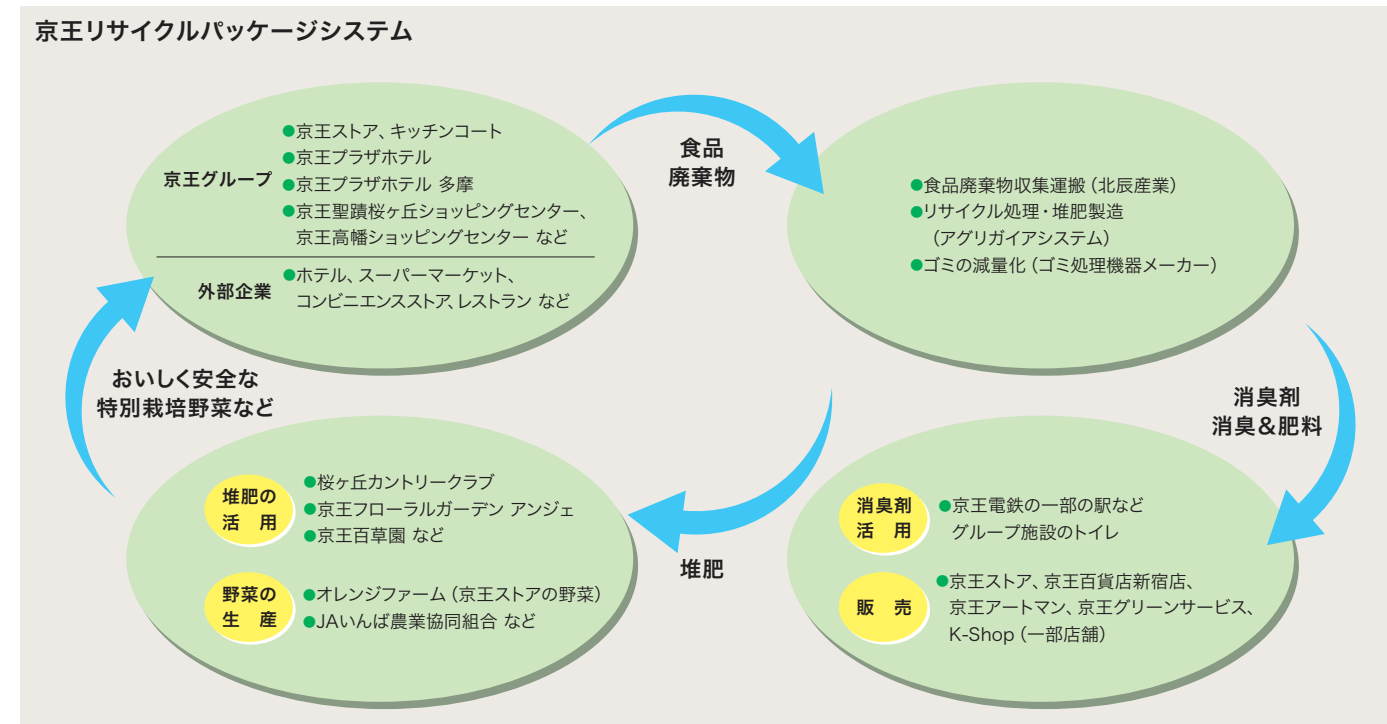
グループ各社で活用しているほか、全国の特別栽培野菜生産農家を束ねている「オレンジファーム」を通じて野菜の栽培に利用し、収穫された野菜を、2005年10月から京王ストアで本格的に販売しています。また、京王プラザホテルの一部レストランでも、この野菜を使用した料理をご賞味いただけます。



ゴルフ場の芝生にも利用される堆肥



京王ストアで販売される再生された堆肥を使って栽培された野菜



環境負荷データ

事業部門ごとに環境負荷を把握し、 負荷低減に向けた活動を進めています。

電鉄の事業として、「鉄道事業部門」、土地・建物の賃貸業・販売業を行う「開発事業部門」の2つの事業があり、この他に会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があります。これらの各部門は、それぞれ事業形態が異なるので部門ごとの集計としています。

鉄道事業部門の現業事業所

集計対象は電車の運行と本社を除く鉄道の事業所です。2005年度は省エネ車両20両を導入しました。これにより、電気使用量は前年比3,815千kWh減、運転原単位は前年度の2.825→2.716 kWh/car・kmでした。

INPUT	OUTPUT
電気 306,415千kWh	一般廃棄物 1,430t
都市ガス 44千m ³	産業廃棄物 1,253t
LPG 17千kg	CO ₂ 排出量 110,347t-CO ₂
石油系燃料 283kL	
水 446,520m ³	
事務用紙 1,992千枚	

開発事業部門の直接管理物件

集計対象に、2005年度の新規物件京王高幡ショッピングセンターを加えたため、廃棄物が440t増える結果となりましたが、電気使用量は4,798kWh削減しました。

INPUT	OUTPUT
電気 44,503千kWh	一般廃棄物 4,024t
都市ガス 242千m ³	産業廃棄物 302t
LPG 17千kg	CO ₂ 排出量 16,451t-CO ₂
石油系燃料 10kL	
水 341,398m ³	
事務用紙 877千枚	

本社ビル・一般管理部門

集計対象は、本社ビル、診療所、平山管理センター(研修施設)に本年度から京王クラブ(社員クラブ)を加えました。本社での省エネ活動では数値を減らせておりますが、社員クラブを加えたため数値が増加する結果となりました。

INPUT	OUTPUT
電気 2,225千kWh	一般廃棄物 77t
都市ガス 26千m ³	産業廃棄物 33t
LPG 17千kg	CO ₂ 排出量 698t-CO ₂
石油系燃料 18kL	
水 18,900m ³	
事務用紙 5,465千枚	

環境会計

2005年度は、踏切の解消、省エネ車両の導入などに、 約65億円の環境投資を行いました。

京王電鉄では環境負荷の削減を目指し、従来より車両や駅舎の省エネ、廃棄物のリサイクルなどに取り組んできました。2004年度からは、環境会計の数値を公表することといたしました。2005年度は、約65億円の環境保全コストをかけ、騒音・振動防止および踏切解消のための「連続立体化工事」、地球温暖化防止のための「省エネルギー車両の新造」、磁気カード等の廃棄物の発生抑制にもつながる「ICカード乗車券システムの導入に向けた駅務機器の改修・更新」などを実施しました。今後は、コストだけでなく、環境保全効果についても定量的な把握ができるよう検討を重ね、環境保全活動をより客観的に評価できるよう努めていきます。

- 【対象期間】** 2005年4月1日～2006年3月31日
- 【対象範囲】** 京王電鉄株式会社の鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門で発生した環境保全コスト(グループ各社は含まず)
- 【算定基準】**
- 「環境省環境会計ガイドライン(2005年版)」および「民鉄事業環境会計ガイドライン(2003年度版)」
 - 環境保全コストとして確実に把握したものについてのみ計上
 - 減価償却費は計上せず

環境保全コスト		(単位:百万円)	
分類	主な取り組み内容	投資	費用
(1) 事業エリア内コスト		4,695	1,640
内訳	(1) - ① 公害防止コスト	2,082	813
	(1) - ② 地球環境保全コスト	1,779	183
	(1) - ③ 資源循環コスト	834	644
(2) 管理活動コスト	環境マネジメントシステムの運用、環境教育、事業所周辺の緑化	59	95
(3) 社会活動コスト	自然保護	0	7
合計	コスト総計	4,753	1,742
		6,495	

百万円未満切捨

2006年度の環境目標を設定しました。 目標の実現に向けて、積極的に取り組んでいきます。

京王電鉄では、各部署ごとに2006年の環境目標を設定しました。
この目標を事業の現場に落とし込み、社員一人ひとりが目標の実現に向けて取り組んでいきます。
また、今後は、「あるべき姿」を想定し、その現実に向けた中長期目標を設定していきます。

2006年度環境目標

部 署		目 標
本社共通		【電気】 本社ビル全体の電気使用量を前年度比7%削減 (CO ₂ 換算42t削減) (7%のうち、省エネ行動で2%、総務部実施の照明器具更新で5%削減)
		【紙】 総務部取次分の使用量500万枚以内 (現状維持)
		【ゴミ】 再資源化率80%以上
鉄道事業部門	鉄道営業部	IC乗車券の開発による乗車券類の廃棄物削減 環境保全意識向上のための現業教育実施
	工務部	工事発生資材のリサイクル 環境保全意識向上のための現業教育実施
	車両電気部	車両機器の省エネルギー装置への置換え検討・推進 車両内装材等の材質変更による廃棄物削減の検討 環境保全意識向上のための現業教育実施
開発事業部門	開発企画部	未利用社有地における不法投棄排除および適切な草刈実施 京王フローラルガーデン内で発生する廃棄物の削減
	開発推進部	賃貸物件の省エネルギー診断によるエネルギー削減対策の実施 物件管理委託者・テナントに対する省エネルギー啓発活動の継続 廃棄物等の適正処理・管理の徹底 新規開発物件への建築設備基準書 (省エネルギーへの配慮を盛り込んだ設計留意書) の作成 主要賃貸物件共用部禁煙の徹底
	SC営業部	従量課金制や分別の徹底による廃棄物リサイクルの推進 テナントへの廃棄物減量指導
総合企画本部	グループ戦略部	グループ共同購買におけるグリーン購入の促進および環境の整備
	事業推進部	京王リサイクルパッケージシステム未参加のグループ企業への参加推進 外部企業に対する京王リサイクルパッケージシステムの営業活動 京王グループの食品リサイクルから生まれたエコ商品 (消臭剤) の活用・販売 システム提携先 (アグリガイアシステム) の施設や契約農家を利用したエコツアーの実施
	経理部	経理部購入用紙を前年度比3%削減
一般管理部門	総務部	啓発による廃棄物の分別促進 照明器具更新により、本社ビル全体の電気使用量前年度比5%削減 本社ビル全体の上水使用量前年度比3.5%削減 環境マネジメントシステム構築範囲の拡大
	広報部	社会環境活動のPRを行う (ポスター制作ほか) 年2回「京王クリーンキャンペーン」を開催する 「高尾の森づくりの会」活動を支援する (植樹)
	人事部	2006年度印刷費を前年度比10%減 独自の重点ルール設定によるゴミ分別の徹底 CSRの必要性を意識づける (新入社員教育)

※鉄道事業部門の計画管理部、一般管理部門の総合企画本部経営企画部、秘書室、監査役室および法務部は、本社共通目標に関する活動を実施します。

報告書の継続的改善につなげるため、 外部識者のご意見をいただきました。

当報告書は、京王電鉄にとって2回目の報告書
(今回より名称を「安全・社会・環境報告書－CSRレポート」と改称)となります。
報告内容や構成など、報告書の継続的な改善につなげるため、
昨年度に引き続き、外部識者のご意見をいただきました。



株式会社トーマツ環境品質研究所
代表取締役 古室正充

昨年に引き続き、本報告書を拝見した上での所感を述べさせていただきます。なお、本所感は報告書に記載されている情報の正確性等につき、一般に公正妥当と認められる基準を判断基準として第三者審査意見を述べるものではありません。

本年の報告書は、「安全・社会・環境報告書－CSRレポート」と昨年の「社会環境報告書」からタイトルを変更している点とあり、安全を自社の最重要課題として認識し、特集などを交え、詳細に紹介している点が大きな長特です。振り返ってみると、昨今の国内の不祥事の多くは、自社の製品・サービスに関する安全や信頼を損なう事象がその発端となっており、社会の要請に応えた形になっていると思います。また、昨年発生した系列ホテルでの耐震強度問題についても真摯に対応し積極的に開示している点は評価できます。また京王グループの営業収益を見ると、本業の運輸業より流通業の方が割合が多くなっています。これは、京王グループの目指す「沿線価値の向上」を着実に推進してきた結果かと思われます。

私は、「報告書は2年目が重要である」と考えています。つまり初めての報告書は、現状の活動をとりまとめる形で発行することができますが、2年目はその後どのように活動が進化したかが問われるからです。そうした視点で見ると、本年の報告書もまだ活動ベースの記載が主体で、各テーマもしくはステーク

ホルダーとのつながりに対する基本姿勢や方針、目標、課題や今後の方向性といった記載は余り見られないのが残念です。例えば、踏切安全対策について記載されていますが、将来的な設置計画などの記載は多くありません。また各ステークホルダーとのつながりということで昨年同様記載が展開されていますが、それらステークホルダーの声や要望をどのように取り込み、どのような形で「つながり」を強化していこうといった記載は多くありませんでした。次年度以降の記載を期待しています。

また加藤社長のメッセージや編集方針ではグループを意識していることを強く感じられますが、実際の記載や数値データなどは単体がメインになっています。今後は各々のテーマにおけるグループとしての考え方などをより明確にしてはいかでしょうか。例えば環境面の記載でCO₂排出量における鉄道の環境優位性について触れられていますが一方でグループにバス事業も有しており、これらを踏まえた上でグループの地球温暖化対策をどのように展開していくのかなどのコミットメントをより強く打ち出すことが重要かと思われます。またアスベストやPCBといった環境リスクの記載についてはグループでのデータ開示が望まれます。

CSRで大切なことは、「強さを含んだ安心感」を社会に与えることだと思っています。今後より一層の「信頼のトップブランド」を追及して、社会から敬愛され、いつまでも社会と共に発展していくことを期待しています。

(表紙の説明)

緑あふれる高尾山。登山道にかかる吊り橋の上での1コマです。
少女は緑いっぱいの高尾山とここへ連れてきてくれる電車が大好きです。

京王電鉄は東京都心部と自然豊かな多摩西部とを結び、
多くの方々に環境に優しい交通手段としての「鉄道」を提供しています。
世界的に環境問題が叫ばれる中、当社はこの自然を子どもたちの世代に継承していきたいと考えています。
そのために、この都市と自然をつなぐ環境負荷の小さい鉄道をこれからも発展させ、
より多くの皆様に安全にご利用いただくことが最も社会に貢献することであるとと考えています。



京王電鉄株式会社

〒206-8502
東京都多摩市関戸1丁目9番地1

安全・社会・環境報告書に関するお問い合わせ

総務部 環境担当
TEL. 042-337-3038
FAX. 042-374-9816
www.keio.co.jp



この安全・社会・環境報告書の用紙は古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。
印刷は水なし印刷で、インクにはNonVOCインクを使用し、環境負荷の低減を図っています。

発行2006年10月